

# 序 文

多賀城市内には特別史跡多賀城跡附寺跡をはじめ、周知の埋蔵文化財包蔵地が多数所在し、それらは市域の約3割にも及んでおります。これらの貴重な「文化遺産」を後世に伝えていくことは我々の重要な責務であります。

近年は、西部地区を中心に宅地造成工事や個人住宅建築工事などによる発掘調査件数が増加傾向にあります。当教育委員会としても開発事業との円滑な調整を図りつつ、国民共有の歴史的財産である埋蔵文化財を適切に保護し、活用に努めているところです。

本書は、令和2年度に受託事業で実施した山王遺跡（南宮地区）の発掘調査の成果を収録したものです。今回は、山王遺跡の北端の調査であり、古代において多賀城南面に拡がるまちなみの北西端に位置するところです。

調査成果としては、古墳時代前期の畑跡、古墳時代中期の水田跡、古代の畑跡などを発見しました。南宮地区の古墳時代から古代の様相の一端が見えてきました。

広大な遺跡の範囲に対しますと、調査面積はわずかでありますが、これらひとつひとつの調査成果を積み重ねて行くことが、本市の新たな歴史像の解明につながるものと確信しております。

最後になりましたが、発掘調査に際し、御理解と御協力をいただきました地権者の皆様をはじめ関係各位に対し、心より感謝申し上げ、挨拶いたします。

令和4年3月

多賀城市教育委員会  
教育長 麻生川敦

## 例　　言

1 本書は、受託事業による令和2年度に宮城県多賀城市南宮字伊勢地内において実施した山王遺跡第223次調査の成果をまとめたものである。

2 発掘調査から整理作業、報告書作成までの担当は以下のとおりである。

【発掘調査】令和2年9月18日～12月8日

研究員 大場正善　技師 佐藤純平　調査員 佐藤則之 金子かおる

【整理作業】令和3年4月1日～令和4年3月31日

研究員 大木丈夫

3 遺構の名称は、第1次調査からの通し番号である。

4 平成14年4月1日の測量法の改正に従い、本書では経緯度の基準を世界測地系で表示している。また、本書で報告している調査では、平成23年3月11日の東日本大震災以降に測量した座標を用いている。なお、図版中の世界測地系係数における小数点以下を省略して表示しているが、有効数字は小数点以下3桁である。また、平面図のグリッドは、世界測地系に沿っており、世界測地系の座標は第3回参照のこと。

5 掘団中の高さは、標高値を示している。

6 土色は、『新版標準土色帖』(小山・竹原：1996)を参考にした。

7 本書の編集は大木丈夫が、図版作成等は遺物整理員が行った。また、遺物の写真撮影は丹野修太、桑折華、高橋伶奈、神山晶子、佐々木瑞美が行った。第3章第2節（3）北区については佐藤則之が執筆し、他は大木が行った。

8 調査に関する諸記録及び出土遺物は、すべて多賀城市教育委員会が保管している。

## 調　　査　要　項

1 調査主体 多賀城市教育委員会 教育長 麻生川 敦

2 調査担当 多賀城市埋蔵文化財調査センター 所長 伊藤 文昭

3 調査担当者 多賀城市埋蔵文化財調査センター

【発掘調査担当】

研究員 大場正善（～令和3年3月）　技師 佐藤純平（～令和3年3月）

調査員 佐藤則之 金子かおる

【整理作業・報告書作成担当】

研究員 大木丈夫

4 調査協力者 八嶋建設株式会社

5 調査従事者 阿部和彦 安藤美喜子 伊東茂 宇田川延男 大塚芳弘 大友文夫 加藤勝二

門脇公貴 叶内正悦 普野大 桑折一博 佐々木啓太 佐々木勉 佐々木久志

佐々木正則 佐藤長次 佐藤道子 佐藤弥悦 清水泰昌 普原富次男 普原正義

関内久子 漸谷良雄 但野順子 千葉辰子 中村宣之 古瀬律子 村上喜代中

山田信治 横山和雄

6 整理従事者 有路尚子 石垣玲子 浦山紀以子 奥田美雪 菊池あかね 佐々木直美

佐々木宣子 佐藤ゆかり 千葉貴久江 千葉都美 長瀬真貴子 秦千尋

堀川紀子 宮城ひとみ

## 凡　　例

- 1 本書で使用した遺構の略称は、次のとおりである。

S D : 溝跡 S E : 井戸跡 S K : 土坑 S X : その他の遺構

- 2 奈良・平安時代の土器の分類記号は『市川橋遺跡－城南土地地区画整理事業に係る発掘調査報告書II』(多賀城市教育委員会 2003) に従った。詳細は下記のとおりである。

(1) 土師器壺

A類：ロクロ調整を行わないもの

B類：ロクロ調整を行ったもの

B I 類：ロクロからの切り離し後、回転ヘラケズリされたもの

B II 類：ロクロからの切り離し後、手持ちヘラケズリされたもの

B III 類：ロクロからの切り離しがヘラ切りで、再調整されないもの

B IV 類：ロクロからの切り離しが静止糸切りで、再調整されないもの

B V 類：ロクロからの切り離しが回転糸切りで、再調整されないもの

B I ・ B II 類では、ロクロからの切り離しが識別できる資料があり、ヘラ切りによるものをa、静止糸切りによるものをb、回転糸切りによるものをcとして細分する

(2) 土師器甕

A類：ロクロ調整を行わないもの B類：ロクロ調整を行ったもの

(3) 須恵器壺

I類：ロクロからの切り離し後、回転ヘラケズリされたもの

II類：ロクロからの切り離し後、手持ちヘラケズリされたもの

III類：ロクロからの切り離しがヘラ切りで、再調整されないもの

IV類：ロクロからの切り離しが静止糸切りで、再調整されないもの

V類：ロクロからの切り離しが回転糸切りで、再調整されないもの

I ・ II 類では、ロクロからの切り離しが識別できる資料があり、ヘラ切りによるものをa、静止糸切りによるものをb、回転糸切りによるものをcとして細分する。

- 3 本文中に用いている「灰白色火山灰」とは、東北地方に広く降下した広域火山灰である。その降下年代に関しては、915年とする説（町田洋「火山灰とテフラ」日本第四紀学会編『日本第四紀地図』1987年。阿子島功・壇原徹「東北地方、10C頃の降下火山灰について」『中川久夫教授退官記念地質学論文集』、1991年）と、907年から934年の間とする説（宮城県多賀城跡調査研究所『宮城県多賀城跡調査研究所年報 1997』、1998年）に見解が分かれている。前者は『扶桑略記』（裏書）延喜15年（915）7月13日条の「出羽国言上、雨灰高二寸、諸郷農桑枯損之由」の記事を火山灰降下記事とする理解である。後者はこの火山灰が、907年伐採の木材を使用している秋田県払田柵跡外奥線C期角材列の存続中に降下していることから907年を上限とし、承平4年（934）に焼失した陸奥国分寺七重塔（『日本紀略』同年閏正月15日条）の焼土層に覆われていることから934年を下限とする説である。近年、915年説を評価するものも見られる（小口雅史「古代東北の広域テフラをめぐる諸問題－和田aと白頭山（長白山）を中心に－」、笠山晴生編『日本律令制の展開』吉川弘文館、2003年）。本書では、これらの研究成果をもとに、10世紀前葉に降下したものと理解する。

# 目 次

序  
例言  
調査要項  
凡例  
目次

第1章 調査に至る経緯と経過	1
第2章 遺跡の環境	1
第3章 調査成果	4
第1節 基本層序	4
第2節 発見された遺構と遺物	7
第4章 まとめ	35

## 挿図目次

第1図 多賀市の位置	1
第2図 調査地点の位置	2
第3図 調査区位置図	3
第4図 調査区全体図及びグリッド配置図	3
第5図 調査区（南区）南堅断面図	4
第6図 VI層平面図（北区）	5
第7図 S X3190小溝群断面図	6
第8図 S X3190小溝群出土遺物	8
第9図 VI層北区遺構外出土遺物	9
第10図 VI層平面図（南区）	10
第11図 S X3189出土土器断面図	11
第12図 SD3187溝跡・SK3188土坑・SX3189小溝群出土遺物	11
第13図 VI層南区遺構外出土遺物	12
第14図 IVb層平面図	13
第15図 IVa層平面図（1）・SD3127溝跡等断面図	14
第16図 S D3128溝跡出土遺物	15
第17図 IVa層平面図（2）・SD3138溝跡断面図	16
第18図 IVa層平面図（3）	18
第19図 IV層a平面図（4）・SK3153土坑等断面図	19
第20図 S D3152溝跡出土遺物	20
第21図 IVa層平面図（5）	20
第22図 IVa層平面図（6）・SK3164土坑等断面図	22
第23図 S D3159溝跡・SD3160溝跡出土遺物	23
第24図 IVa層平面図（7）・SD3172溝跡等断面図	24
第25図 S D3172溝跡出土遺物	25
第26図 IVa層平面図（8）・SE3176井戸跡等断面図	26
第27図 SE3176井戸跡出土遺物	27
第28図 IVa層平面図（9）	28
第29図 SD3183溝跡出土遺物	29
第30図 IVa層平面図（10）	31-32
第31図 S X3185小溝群・SD3226溝跡断面図	31-32
第32図 SK3184土坑出土遺物	33
第33図 IVa層遺構外遺物	34
第34図 遺構変遷図	35
第35図 宮城県調査地点X区中央平面図	35

## 表目次

表1 S X3190小溝群土層観察表（1）	6
表2 S X3190小溝群土層観察表（2）	6

表3 S X3190小溝群土層観察表（3）	7
表4 S X3190小溝群土層観察表（4）	7
表5 S X3190小溝群土層観察表（5）	7
表6 S X3190小溝群土層観察表（6）	7
表7 S X3190小溝群出土遺物観察表	8
表8 VI層北区遺構外出土遺物観察表	9
表9 S X3189出土土器土層観察表	11
表10 SD3187溝跡・SK3188土坑・SX3189小溝群出土遺物観察表	11
表11 VI層南区遺構外出土遺物観察表	12
表12 SK3129土坑・SD3127溝跡・SD3128溝跡土層観察表	15
表13 SD3128溝跡出土遺物観察表	15
表14 SD3138溝跡土層観察表	16
表15 SK3153土坑・SD3152溝跡・SK3154土坑土層観察表	19
表16 SD3152溝跡出土遺物観察表	20
表17 SK3164～3170土坑・SD3160溝跡・SD3159溝跡土層観察表	23
表18 SD3159溝跡・SD3160溝跡出土遺物観察表	23
表19 SD3172溝跡・SD3173溝跡土層観察表	24
表20 SD3172溝跡出土遺物観察表	25
表21 SE3176井戸跡・SD3180溝跡土層観察表	26
表22 SD3171溝跡土層観察表	27
表23 SE3176井戸跡出土遺物観察表	27
表24 SD3183溝跡出土遺物観察表	29
表25 S X3185小溝群土層観察表（1）	31-32
表26 S X3185小溝群土層観察表（2）	31-32
表27 S X3185小溝群土層観察表（3）	33
表28 S X3185小溝群土層観察表（4）	33
表29 SD3226溝跡土層観察表	33
表30 SK3184土坑出土遺物観察表	33
表31 IVa層遺構外出土遺物観察表	34

## 写真図版

1-1 調査区遠景（北から）	
2 調査区全景	
2-1 北区VI層上面遺構検出状況	
2-2 南区VI層上面遺構検出状況	
3 S X3190-12・16・19断面	
4 S X3189-1遺物出土状況（南から）	
5 SK3188遺物出土状況（北から）	
6 古墳時代中期畦畔断面（北から）	
3-1 SD3127溝跡等完掘状況（西から）	
2 SK3154土坑完掘状況（北西から）	
3 SD3152溝跡完掘状況（東から）	
4 SD3171溝跡等完掘状況（西から）	
5 SE3176井戸完掘状況（西から）	
6 SX3185小溝群完掘状況（西から）	
7 SX3185-6・7・8断面（東から）	
8 作業風景（北西から）	
4-1 SD3187溝跡出土土師器高杯（R 2）	
2 VI層遺構外出土土師器高杯（R 43）	
3 SX3189小溝群出土土師器甕（R 18）	
4 VI層出土古墳時代土師器	
5 SD3128溝跡出土土師器杯（R 1）	
6 SD3159溝跡出土須恵器杯（R 24）	
7 SD3172a溝跡出土須恵器素器（R 31）	
8 IVa層遺構外出土土師器台（R 12）	

## 第1章 調査に至る経緯と経過

本件は、南宮字伊勢の宅地造成に伴う埋蔵文化財発掘調査である。

令和元年9月10日、事業者から当該事業計画と埋蔵文化財とのかかわりについての協議書が提出された。計画では4,787m<sup>2</sup>の土地に幅6mの道路を敷設し、宅地23区画を造成するものである。工事内容は、宅地部分に対して、現地表面から最大90cmの盛土を行い、道路部分には、給排水管を設置し、幅最大2m、深さ最大2.2mの掘削が伴うものである。そのため、道路部分は遺跡の広がりを確認することが必要となり、確認調査を実施することになった。

令和2年2月19日に事業者より発掘調査の依頼書・承諾書の提出を受けた。それを受け、令和2年3月5日～3月25日に当該地において、確認調査（山王遺跡第220次調査）を実施した。結果、工事対象地全域にわたり、古代の溝跡や小溝群を検出した。のことから、工事により遺跡に影響をあたえることが懸念された。工事内容の変更などの協議を行ったが、計画どおり工事を実施することとなった。そのため、道路敷設部分を対象に本発掘調査を行うこととなった。令和2年9月11日に事業者と発掘調査の委託契約を結んだ。なお、発掘調査対象面積は、約940m<sup>2</sup>である。

9月18日から重機による表土掘削を開始し、28日に終了した。9月29日から作業員による作業を始め、環境整備を行った。10月5日から1面目の遺構確認を実施し、確認調査の結果のとおり古代の遺構を検出した。遺構の掘削、写真撮影、測量を順次行った。11月16日からこの下層の遺構の有無を確認するため、深掘りを開始した。確認調査では発見できなかった遺構面があることがわかり、検出面まで作業員により人力で掘り下げた。1面目調査同様、遺構確認、遺構掘削、写真撮影、測量を実施し、12月8日に器材の撤収が完了し、現場作業が終了した。

## 第2章 遺跡の環境

本遺跡が所在する多賀城市は、宮城県仙台市の中心部から北東約10kmの位置にある。南西部では仙台市、北西部では利府町、北東部では塩竈市、南東部では七ヶ浜町にそれぞれ接し、東西約6km、南北約3kmの規模がある。

多賀城市的地形は、中央部を北西から南東方向に貫流する砂押川を境に、東側の丘陵部と西側の沖積地に二分される。丘陵部は、松島・塩釜方面から延びる標高40～70mの低丘陵であり、南西に向かって枝状に延びている。沖積地と接する付近では、谷状の地形を形成しており、緩やかではあるが起伏に富んだ様相をみせる。沖積地は、仙台平野の北東部に相当する。仙台市岩切方面から東に向かう県道泉・塩釜線沿いには、標高5～6mの微高地が延びており、その北側には低湿地が広がっている。一方、南側には大小の微高地や低湿地、旧河道などがあり、海岸に近い場所では浜堤列も確認できる。



第1図 多賀城市の位置



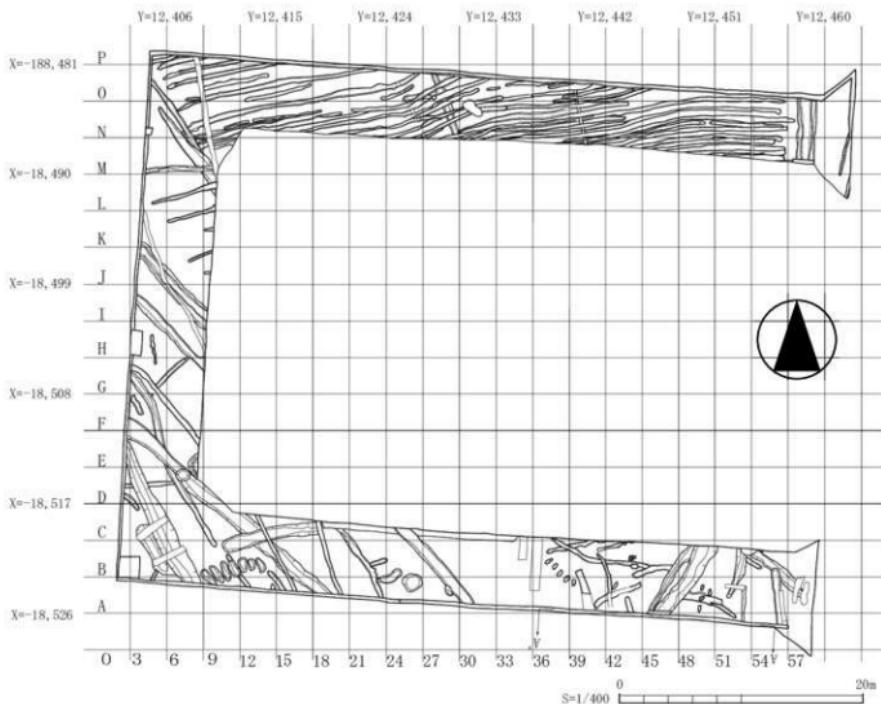
第2図 調査地点の位置

市内には、40を超える遺跡が所在している。西側の沖積地から丘陵部の西端にかけては、新田・山王・市川橋・高崎・西沢遺跡など市内でも有数の規模をもつ遺跡が隣接して分布している。これらの遺跡で発見された遺構や遺物には、陸奥国府が置かれた多賀城と密接に関わるものが多く認められ、この時期に限ってみれば一連の遺跡群と捉えることができる。一方、南東部には海岸線沿いの浜堤上に八幡沖遺跡、浜堤から丘陵にかけては大代貝塚や大代横穴墓群、柏木遺跡などが所在している。

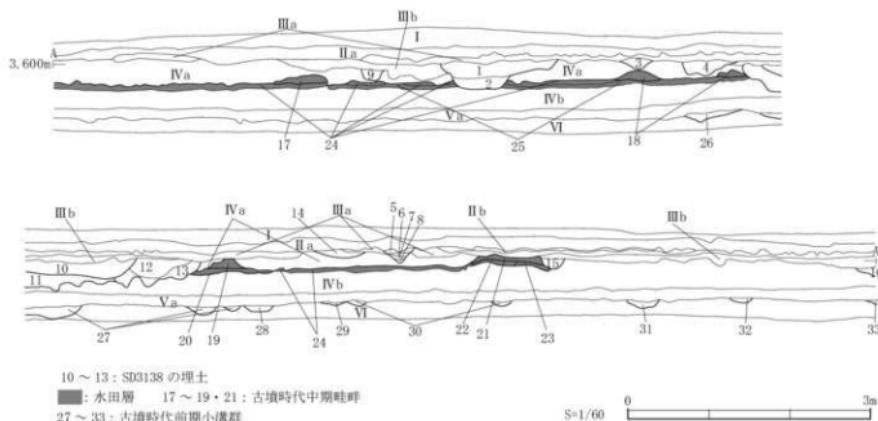
山王遺跡は、標高3～4mの微高地に立地し、その範囲は東西約2km、南北約1kmである。これまで弥生時代中期頃の水田跡や古墳時代の集落跡、古代の方格地割、中世の屋敷跡などが発



第3図 調査区位置図



第4図 調査区全体図及びグリッド配置図



第5図 調査区（南区）南壁断面図

見されている。このうち、古代の方格地割は南北大路と東西大路の二つの幹線道路を基準とし、東西・南北の直線道路によっておよそ1町四方の区画を造成したものである。これによって形成されたまち並みからは、上級役人の邸宅や中・下級役人の住まいである建物跡や井戸跡などが多数発見されている。

今回の調査地点は、山王遺跡の中央部北端に位置する。周辺の調査では、本調査区北側の県道泉・塩釜線の建設工事に先立って、平成7・8年度に宮城県教育委員会が発掘調査を実施している。そこでは、古墳時代の前期～中期の竪穴建物跡、小溝群、古代の掘立柱建物跡や小溝群等を検出している。他には近世の屋敷跡なども発見している。とりわけ注目されるのは、宮城県調査分のXI区南側で、方格地割を形成する北2道路を発見している（宮城県教育委員会、1998）。県の調査区の東側で、本市が調査した第95次調査でも、北2道路の南側溝を検出している（多賀城市教育委員会、2013）。今回の調査区は、古代の方格地割の北西端部に位置しているといえる。

また、今回の調査区の南側で、本市が第193次調査を実施しており、確認調査のため時期は不明であるが、溝跡等を検出している（多賀城市教育委員会、2021）。また、南西側の第106次調査は、塩竈街道に面しており、近世の遺構を発見している（多賀城市教育委員会、2018）。よって、この地区は、古墳時代から近世の遺跡が存在していることになる。

### 第3章 調査成果

#### 第1節 基本層序（第5図）

古代の遺構は、現地表面から約20～50cmの深さで検出しており、古墳時代の遺構は同じく約90～100cmで検出している。詳細は以下のとおりである。

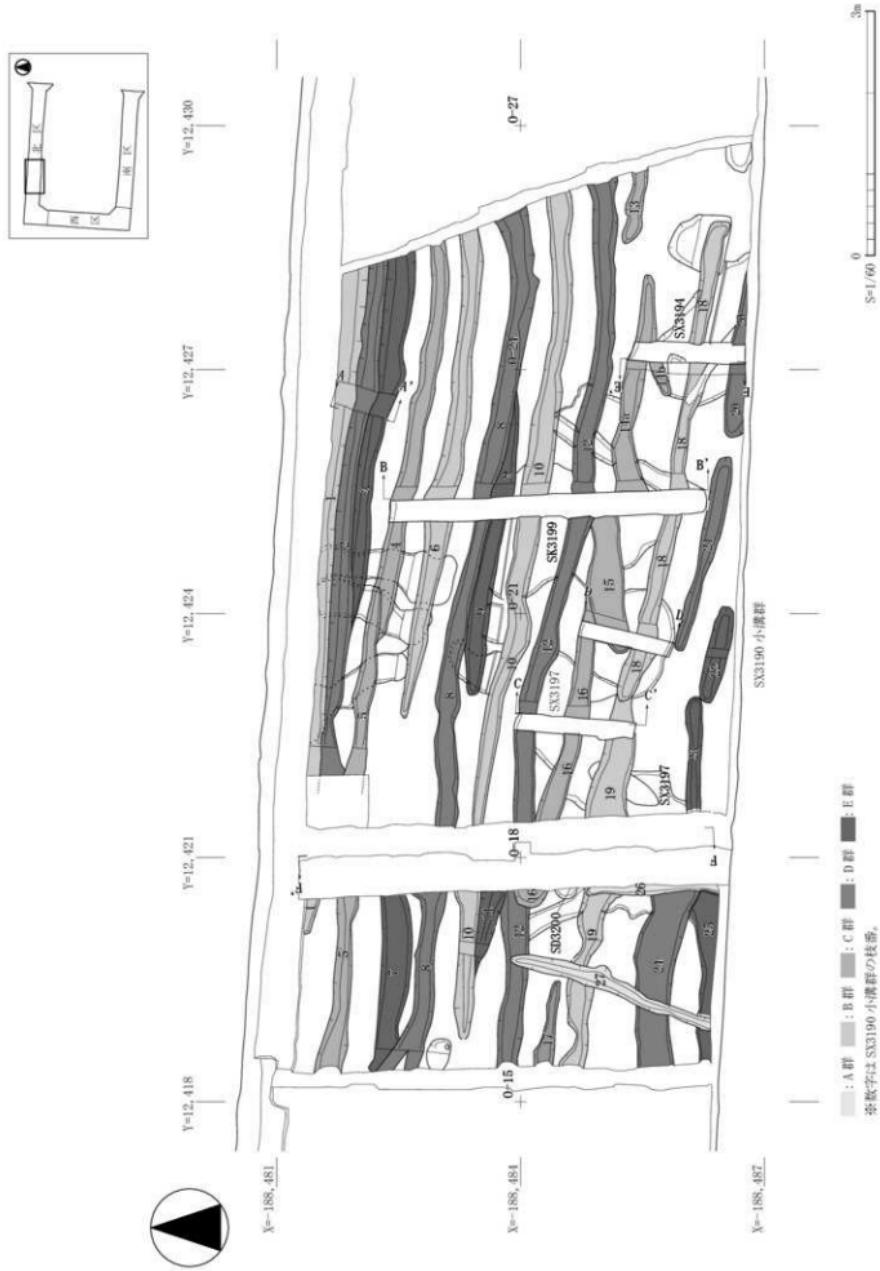
I層：表土層で、厚さは約10～40cmある。

IIa層：黒褐色（10YR2/2）のシルト層で、厚さは約10～15cmある。旧耕作土。

IIb層：黒色（5Y2/1）の粘土層で、厚さは約5cmある。

第6図 VI層平面図（北区）

■：A群 ■：B群 ■：C群 ■：D群 ■：E群  
※数字はS33190小溝群の技番。



IIIa層：褐色（10YR4/1）の粘土層で、厚さは約5～10cmある。

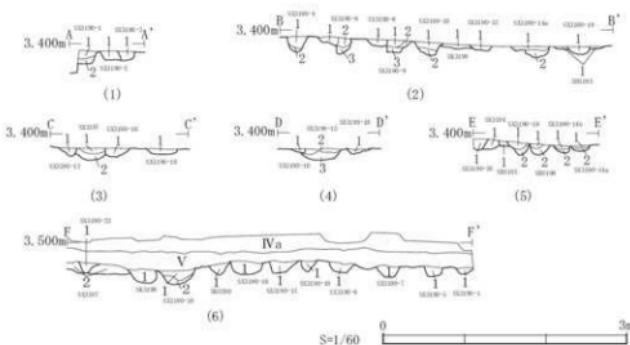
IIIb層：黒色（10YR3/1）の粘土層で、厚さは約5～10cmある。

IVa層：にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト質細粒砂層で、厚さは約10～40cmある。この層の上面が古代の遺構検出面である。

IVb層：にぶい黄褐色（10YR5/3）シルト質粘土層で、厚さは約20～30cmある。IVa層がみられない場所では、この上面が古代の遺構検出面で、IVa層がある場所は、古墳時代中期の遺構検出面になる。

V層：黒褐色（2.5Y3/1）粘土層で、厚さは約10cmある。

VI層：黄灰色（2.5Y5/1）の細粒砂層で、この層の上面が古墳時代前期の遺構検出面である。



第7図 S X3190小群断面図

表1 S X3190小群層観察表(1)

層位	遺構	土色	土性	備考
1	SX3190-1	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土質シルト	炭化物鉱少量含む。地山IV層のブロック(直径2cm以下)を多く含む。
2		黒褐色(2.5Y3/1)	粘土質シルト	1層より黒色塊部びる。地山IV層のブロックを多く含む。
3	SX3190-2	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土質シルト	炭化物鉱少量含む。地山IV層のブロック(直径2cm以下)を多く含む。
4	SX3190-3	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土質シルト	炭化物鉱少量含む。地山IV層のブロック(直径2cm以下)を多く含む。

表2 S X3190小群層観察表(2)

層位	遺構	土色	土性	備考
1	SX3190-4	灰黒褐色(10YR4/2)	砂質シルト	地山粒を少量含む。灰白色火山灰ブロックを少量含む。
2		灰黒褐色(10YR5/2)	砂質シルト	地山粒を少量含む。
1	SX3190-6	灰黒褐色(10YR5/1)	砂質シルト	地山粒を少量含む。
2		灰黒褐色(10YR4/2)	砂質シルト	粘性弱い。
3		灰黒褐色(10YR4/2)	シルト質細砂	地山粒を少量含む。
1	SX3190-8	灰黒褐色(10YR5/1)	砂質シルト	地山粒を少量含む。
1		灰黒褐色(10YR5/1)	砂質シルト	地山粒を少量含む。
2	SX3190-9	灰黒褐色(10YR4/2)	粘土	粘性やや強い。しまりあり。
3		灰黒褐色(10YR4/2)	シルト質細砂	地山粒を少量含む。
1	SX3190-10	灰黒褐色(10YR5/1)	砂質シルト	地山粒を少量含む。
2		灰黒褐色(10YR6/2)	シルト質細砂	地山粒を少量含む。
1	SX3199	灰黒褐色(10YR5/1)	砂質シルト	地山粒を少量含む。
1	SX3190-12	灰黒褐色(10YR5/2)	砂質シルト	地山粒を少量含む。炭化物少量含む。
1	SX3190-14a	灰黒褐色(10YR5/2)	砂質シルト	地山粒を少量含む。炭化物少量含む。
1	SX3190-18	灰黒褐色(10YR5/1)	砂質シルト	地山粒を少量含む。
1	SX3193	灰黒褐色(10YR5/1)	砂質シルト	地山粒を少量含む。

表3 S X3190小溝群土層観察表(3)

層位	遺構	土色	土性	備考
1	SX3190-12	黒褐色(10YR3/1)	砂層	炭化物鉱少量含む。堆山小ブロックを多量に含む。
1	SX3197	黒色(10YR2/1)	砂層	炭化物鉱多量に含む。堆山小ブロックを少量含む。
2		黒褐色(2.5Y3/1)	砂層	堆山の砂を多量に含む。
1	SX3190-16	黒褐色(10YR3/1)	砂層	炭化物鉱少量含む。堆山小ブロックを多量に含む。
1	SX3190-19	黒色(10YR2/1)	砂層	堆山小ブロックを少量含む。

表4 S X3190小溝群土層観察表(4)

層位	遺構	土色	土性	備考
1	SX3190-16	黒褐色(10YR3/1)	砂層	炭化物鉱少量含む。堆山小ブロックを多量に含む。
2	SX3190-15	暗色(10YR2/1)	砂層	堆山小ブロックを少量含む。
3		暗灰黒色(10YR2/2)	砂層	堆山の砂を多量に含む。
1	SX3190-18	黒褐色(10YR3/1)	砂層	炭化物鉱少量含む。堆山小ブロックを多量に含む。

表5 S X3190小溝群土層観察表(5)

層位	遺構	土色	土性	備考
1	SX3190-20	黒褐色(10YR3/1)	シルト質砂層	炭化物鉱、堆山小ブロック少量含む。
1	SX3194	黒褐色(10YR3/1)	砂層	炭化物鉱少量含む。堆山IV層の小ブロックを多量に含む。
1	SX3195	黒褐色(10YR3/1)	砂層	炭化物鉱極めて多く含む。堆山小ブロック少量含む。
1	SX3199-18	黒褐色(10YR3/1)	砂層	炭化物鉱、堆山小ブロックを若干含む。
2		暗灰黒色(2.5Y3/2)	粘土質シルト	1層の土を少量含む。
1	SX3196	黒褐色(10YR3/1)	砂質シルト	堆山粒を少量含む。
2		暗灰色(10YR4/1)	粘土質シルト	堆山IV層のブロックを多量に含む。
1	SX3199-14b	黒褐色(10YR3/1)	砂質シルト	堆山粒を少量含む。炭化物少量含む。
2		黒褐色(10YR3/2)	砂質シルト	堆山粒を少量含む。炭化物少量含む。
1	SX3199-14e	黒褐色(10YR3/1)	砂質シルト	堆山粒を少量含む。
2		黒褐色(10YR2/2)	砂質シルト	堆山粒を少量含む。炭化物少量含む。

表6 S X3190小溝群土層観察表(6)

層位	遺構	土色	土性	備考
1	SX3190-23	黒褐色(10YR3/2)	砂層	炭化物鉱を少量含む。
2	SX3197	灰黄褐色(10YR5/2)	砂層	炭化物鉱を少量含む。
1	SX3196	黒色(10YR2/1)	砂層	炭化物鉱を少量含む。
1	SX3190-19	黒色(10YR2/1)	砂層	炭化物鉱を少量含む。
2		黒褐色(10YR3/1)	砂層	炭化物鉱を少量含む。
1	SX3200	黒褐色(10YR3/2)	砂層	炭化物鉱を少量含む。褐灰色シルト少量含む。
1	SX3190-16	黒褐色(10YR3/2)	砂層	炭化物鉱を少量含む。褐灰色シルト少量含む。
1	SX3190-12	黒褐色(10YR3/2)	砂層	炭化物鉱を少量含む。褐灰色シルト少量含む。
1	SX3190-10	黒褐色(10YR3/1)	砂層	炭化物鉱を少量含む。クラックに灰白色火山灰が充積している。
1	SX3190-8	黒褐色(10YR3/1)	砂層	炭化物鉱を少量含む。クラックに灰白色火山灰が充積している。
1	SX3190-7	黒褐色(10YR3/1)	砂層	炭化物鉱を少量含む。クラックに灰白色火山灰が充積している。
1	SX3190-5	黒褐色(10YR3/1)	砂層	炭化物鉱を少量含む。クラックに灰白色火山灰が充積している。
1	SX3190-1	黒褐色(10YR3/1)	砂層	炭化物鉱を少量含む。クラックに灰白色火山灰が充積している。

## 第2節 発見した遺構と遺物

### (1) VI層上面検出遺構と遺物

VI層上面では、古墳時代前期及び中期の遺構を確認している。小溝群を主に検出している。小片のため図示できない遺物が多かったが、古代の遺構確認面よりも遺物の出土量は多かった。

### S X3190小溝群(第6・7図)

【位置】北区の調査区全域で発見した。

【重複】S X3194不明遺構、S X3197不明遺構、S K3199土坑と重複しており、いずれの遺構よりも新しい。

【変遷等】A～E群の5群に分けられる。A群はS X3190-26・27で、南北方向の溝跡である。長さについては、遺構南側が調査区外へ延びるため不明であるが、幅約0.2m、深さ約0.1mの規模である。埋土は



第8図 S X3190小溝群出土遺物

表7 S X3190小溝群出土遺物観察表

番号	種類	出土遺物	特徴		日付 既往 埋存年	既往 発見年	器種	写真図版	見跡番号	備考	(単位: cm)
			外観	内面							
1 土師器 壺	SX3190-10	体部: ハラケズリ 底部: 手捺目・ハラケズリ	ハラケズリ		- (5.7) 12/24	-	-	-	844	A類	
2 土師器 壺	SX3190-10	体部: ハラケズリ 底部: ハラケズリ	体部: ハラナゲ		- (4.3) 24/24	-	-	-	845	A類	
3 土師器 壺	SX3190-19	体部: ハラケズリ 底部: ハラケズリ	ハラナゲ		- (5.8) 12/24	-	-	-	847	A類	

灰黄褐色砂質シルトであった。B～E群は東西方向の構造で、ほぼ同じ方向を向いており、調査区外まで延びている。B群はS X3190-1・6・10・18・19で、規模は、幅約0.2～0.5m、深さ約0.15mである。埋土は、黒褐色の砂質シルトが主である。B群の10と19から、古墳時代の土師器の壺や壺の底部が出土している（第8図）。また、小片があるが1、6、10、18、19から土師器が出土している。C群はS X3190-4・5・14・15・16で、幅約0.2～0.5m、深さ約0.15mの規模である。埋土は灰黄褐色及び黒褐色の砂質シルトが主である。4、5、14、16からは小片であるが土師器が出土している。D群はS X3190-2・8・12・20・21・24で、幅約0.15～0.5m、深さ約0.1～0.15mの規模である。埋土は黒褐色の砂質シルトが主である。8、12、20から小片であるが土師器が出土している。E群はS X3190-3・7・9・11・22・23・25で、確認できる範囲で幅約0.25～0.4m、深さ約0.1～0.15mで、埋土は黒褐色の砂質シルトである。7、25からは、小片であるが土師器が出土している。

#### S D3187溝跡（第10図）

【位置】南区中央南から西側に位置する。

【方向・規模】北東から南西へ向かう溝跡である。幅約0.3m、深さ0.15mの規模で、構造南側は、調査区外にあるため、長さは不明である。

【遺物】古墳時代中期の高壇の脚部が出土している（第12図1）。他に小片であるが土師器壺が出土している。

#### S K3188土坑（第10図）

【位置】調査区南西部で検出している。

【規模】検出した範囲で、径約1.2mの円形の土坑と思われる。

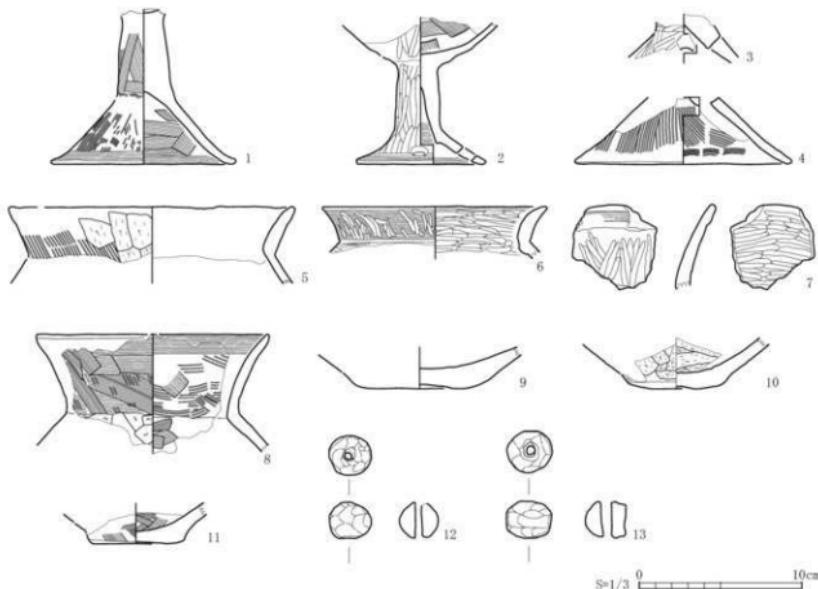
【埋土】主に黒褐色土（10YR1.7/1）である。

【遺物】古墳時代前期の壺が検出面から出土している（第12図3）。

#### S X3189小溝群（第10図）

【位置】南区西側で検出している。

【変遷等】4時期の変遷を確認できる。すべてが東西方向の溝跡である。A群は、S X3189-3・4・10・16・18であり、規模は幅約0.3～0.6mほどある。B群はS X3189-1・8・9・14であり、規模は幅約0.2～0.6mある。1からは、古墳時代前期の壺がまとめて出土している（第11図、第12図2）。C

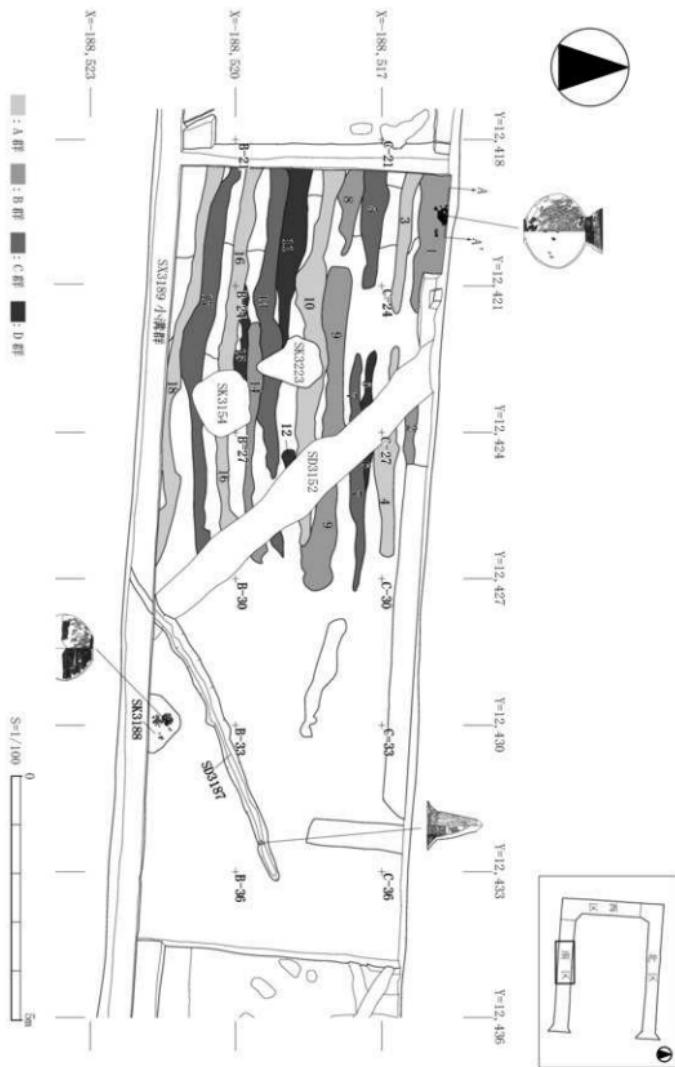


第9図 VI層北区遺構外遺物

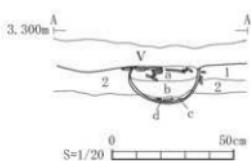
表8 VI層北区遺構外出土物観察表

(単位: cm)

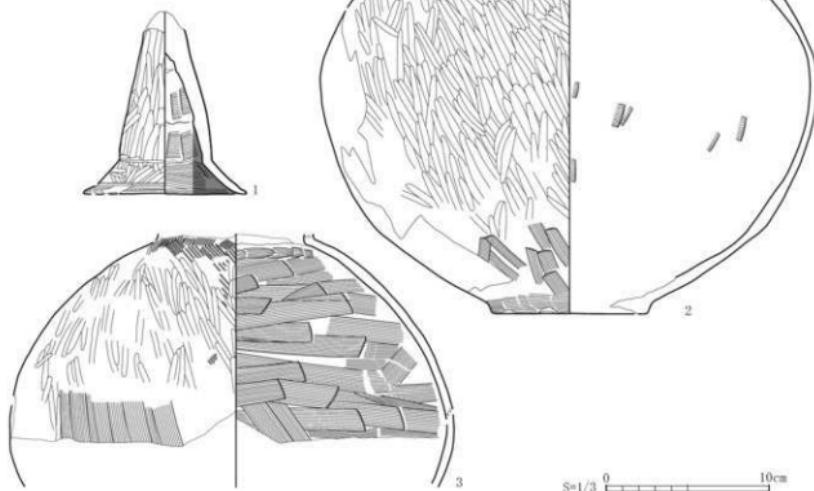
番号	種類	出土場所	特徴		口径 生存率	底径 生存率	器面	写真図版	登錄番号	備考
			外面	内面						
1	土師器 壺	O-20 O-21	背面: ハラナデ・ハケメ・ヨコナデ 腹面: ヨコナデ		- (11.1) 7/24	- (7.4) 7/24	-	-	R10	A類
		P-30	背面: ハラナデの後へラミガキ 腹面: ヨコナデ		- (7.9) 24/24	- (7.9) 24/24	-	-	R7	A類
3	土師器 壺	O-27	体面: ハラミガキ	ナデ	-	-	-	-	R11	A類
		P-21	背面: ヨコナデの後ハケメ	背面: ハケメ	(13.9) 24/24	-	-	-	R13	A類
5	土師器 壺	O-20	口縁: ハラナデのらへラケズリ	背面: 上り不明	(17.4) 12/24	-	-	-	R52	A類
		O-21	口縁: ヨコナデのもへラミガキ	背面: 上り不明	(13.6) 5/24	-	-	-	R56	A類
7	土師器 壺	P-24	口縁: ハラナデのらへナナデ 体面: ハラケズリ	口縁: ヨコナデ・ハケメ・ハラケズリ 体面: ハラナデ	-	-	-	-	R20	A類
		O-30	口縁: ハラナデ・ミガキ	ミガキ	(14.2) 1/24	-	-	-	R53	A類
8	土師器 壺	O-27	厚底に上り不明	厚底により不明	- (7.3) 12/24	-	-	-	R55	A類
		O-21	体面: ハラケズリ	ハラケズリ	- (6.0) 16/24	-	-	-	R57	A類
10	土師器 壺	O-21	体面: 不明		- (6.0) 16/24	-	-	-		
		O-27	体面: ハラナデ 底面: ハラケズリ	ハラナデ	- (5.9) 24/24	-	-	-	R54	A類
12	土玉	O-27	長さ: 2.2 幅: 2.6 厚さ: 2.4 孔径: 0.4						R22	
13	土玉	O-27	長さ: 2.3 幅: 2.8 厚さ: 2.5 孔径: 0.6						R23	



第10図 VI層平面図(南区)



第11図 S X3189出土器断面図



第12図 S D3187溝跡・S K3188土坑・S X3189小溝群出土遺物

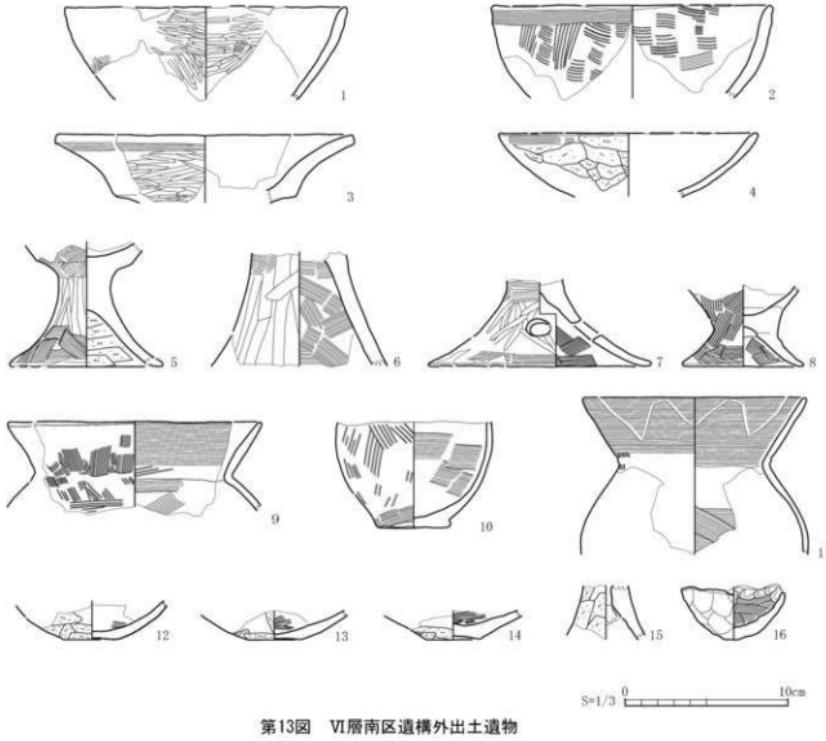
表9 S X3189出土器土層観察表

層位	虚構	土色	土性	備考
1	SX3189-1	褐褐色 (10YR3/2)	シルト質細砂	堆山の砂を少量含む。
2		灰ぶい黄褐色 (10YR5/3)	細砂	堆山の砂を少量含む。
a		灰黄褐色 (10YR4/2)	シルト質細砂	しまりやや弱い。粘性弱い。土塊片を大量に含む。
b		灰ぶい黄褐色 (10YR5/3)	砂層	しまりやや弱い。
c		灰黄褐色 (10YR5/2)	シルト質細砂	しまりやや弱い。粘性弱い。
d		暗褐色 (10YR2/3)	有機質層	しまりやや弱い。粘性なし。

表10 S D3187溝跡・S K3188土坑・S X3189小溝群出土遺物観察表

(単位: cm)

番号	種類	出土遺構	特徴		口径 残存率	底径 残存率	深さ	写真回数	登録番号	備考
			外面	内面						
1	土耕留 壁	SD3187	断面: ハラミガキ・ヨコナデ	ヨコナデ	-	(10.0) 8/24	-	4-1	R2	A類
2	土耕留 壁	SX3189-1	口縁部: ヨコナデ・ハラミガキ 腹部: ハラナデ・ナデ 体部: ハラミガキ・ハラナデ	口縁部: ナデ・ハラミガキ 腹部: ハラナデ 体部: ハラナデ	18.1 24/24	(9.4) 3/24	32.3	4-3	R18	A類
3	土耕留 壁	SX3188	断面: ハケヌ・ハラミガキ	ハラナデ	-	-	-	-	R19	A類



第13図 VI層南区遺構外出土遺物

(単位: cm)

番号	種類	出土地点	特徴		口縁 残存率	底縁 残存率	器高	写真図版	登録番号	備考
			外面	内部						
1	土師器 片	B-24	ハラミガキ	ハケメのちハラミガキ	(17.2) 7/24	-	-	-	R39	A類 S K3223の検出面から出土。
2	土師器 片	B-24	口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデ	ハケメ	(17.2) 8/24	-	-	-	R40	A類 S K3223の検出面から出土。
3	土師器 高杯	B-33	口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラミガキ	摩滅により不明	(18.2) 3/24	-	-	-	R5	外面摩滅有力
4	土師器 高杯	B-24	口縁部:ヨコナデのちハラケズリ	摩滅により不明	(18.8) 8/24	-	-	-	R41	S K3223の検出面から出土。
5	土師器 高杯	B-21	内縁:ナデ 縁部:ヘラミガキ・ヘラナデ	ナデ	-	(0.2) 10/24	-	-	R6	A類
6	土師器 高杯	C-21	縁部:ナデ・ヘラミガキ	ナデ	-	-	-	-	R8	A類
7	土師器 高杯	B-33	縁部:ナデ・ヘラミガキ・ナデ	ヘラナデ	-	(13.6) 11/24	-	-	R1	A類
8	土師器 高杯	A-21	縁部:ハケメ・ヘラナデ	ヘラナデ	-	7.4	-	-	R2	A類 S X3189-11の検出面から出土。
9	土師器 壺	C-21	口縁部:ヨコナデのちハケメ 縁部:ハラナデ	口縁部:ハケメのちヨコナデ 縁部:ヘラナデ	(15.4) 22/24	-	-	-	R16	A類
10	土師器 小型壺	B-36	体部:ハケメ・ナデ	ヘラナデ	-	4.2	-	-	R15	A類
11	土師器 壺	B-21	口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラケズリ	口縁部:ヨコナデ 体部:ヘラナデ	(13.6) 5/24	-	-	-	R50	A類
12	土師器 壺	B-33	体部:ヘラケズリ	体部:ヘラナデ	-	3.5	-	-	R48	A類
13	土師器 壺	A-33	体部:ヘラケズリ	体部:ヘラナデ	-	3.4	-	-	R49	A類
14	土師器 壺	V層	体部:ヘラケズリ	体部:ヘラナデ	-	(3.4) 15/24	-	-	R47	A類
15	土師器 盃	C-33	縁部:ヘラケズリ	-	-	-	-	-	R42	
16	土師器 ミニチャーピング	C-21	ナデツカ	ナデ	(6.3) 20/24	0.7	3.3	-	R21	S X3189-16の検出面から出土。

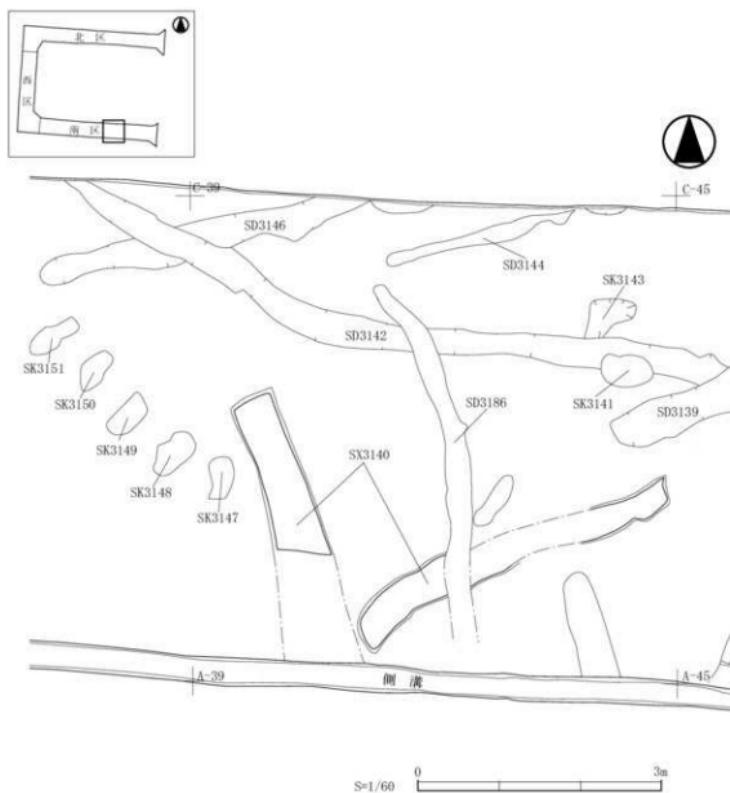
群はS X3189-5・7・13・17であり、規模は幅約0.2～0.5mほどある。D群はS X3189-6・11・15である。規模は、C群の小溝跡に壊されており不明である。また、この小溝群はSD3152溝跡、SK3154土坑、SK3223溝跡と重複しており、いずれの遺構よりも古い。出土した遺物は、この遺構に伴うものかは不明であるが、検出面で高坏の脚部（第13図8）、ミニチュア土器（第13図16）などが出土している。

#### 遺構外出土遺物（第9・13図）

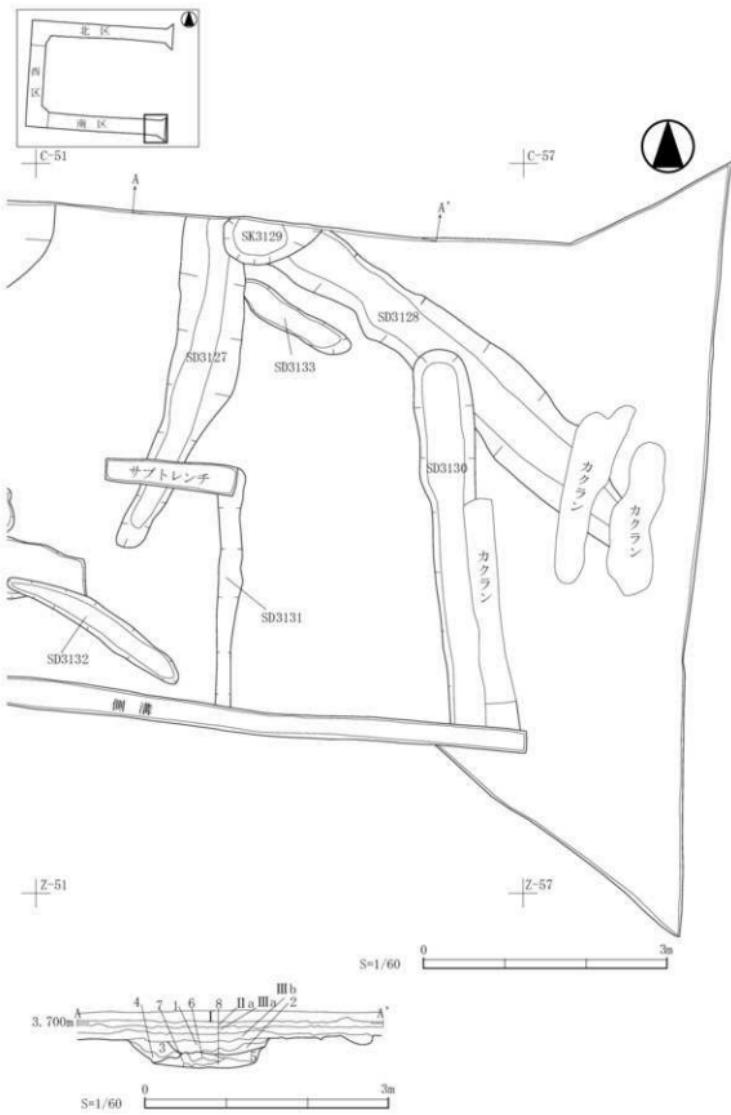
VI層上面では、土師器の坏、高坏、甕、壺、器台、ミニチュア土器、土玉が出土している。いずれの遺物も古墳時代前期の土器である。器種としては、高坏と壺が多く出土している。

#### （2）IVb層上面検出遺構

平面では、南区南東側のごく一部の範囲で発見しており、遺物の出土状況や古墳時代前期の遺構検出面



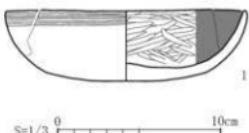
第14図 IV b 層平面図



第15図 IVa層平面図(1)・SD3127溝跡等断面図

表12 S K3129土坑・S D3127溝跡・S D3128溝跡土房観察表

層位	遺構	土色	土性	備考
1	SK3129	褐色(10W4/1)	シルト	粘性あり。しまりあり。地山松子少量含む。
2		黒色(2, 5Y2/1)	シルト	粘性無い。しまりあり。
3		黒褐色(10W2/2)	シルト	粘性あり。しまりあり。地山松子少量含む。
4	S D3127	黒褐色(10W3/2)	シルト	粘性あり。しまりあり。地山松子少量含む。
5		黒色(10W2/1)	粘土	粘性やや強い。しまりあり。地山松子少量含む。
6		黒褐色(10W3/1)	粘土	粘性やや強い。しまりあり。地山松子少量含む。
7	S D3128	黒褐色(10W3/1)	粘土	粘性あり。しまりあり。地山松子多く含む。
8		灰褐色(10W4/2)	粘土	粘性やや強い。しまりあり。



第16図 S D3128溝跡出土遺物

表13 S D3128溝跡出土遺物観察表

番号	種類	出土遺物	特徴		口径 現存率	底径 現存率	器高	写真回数	登録番号	備考	(単位: cm)
			外面	内面							
1	土師器 片	S D3128	口縁部: ヨコナラ 底部: 蓋部・埋植上: 不明	ヘラミガキ-黒色處理	(14.8) 3/24	-	4.4	4-5	R1	A類	

と古代の遺構検出面の間の層で検出していることから、古墳時代中期の遺構と考えられる。

### S X3140畦畔跡（第14図）

【位置】 南区東側南壁際A-39・42、B-39グリッドで検出している。

【重複】 S D3136溝跡と重複しており、それよりも古い。

【規模など】 2つの畦畔跡を確認しており、幅約1m、高さ約10cm～15cmある。畦畔は、黒褐色の粘性の強い土で成形されている。

【遺物】 遺物は出土していない。

### （3）IVa層上面検出遺構

IVa層がなく、IVb層上面で古代の遺構を検出している場合があるが、ここでは、古代の遺構を一括して述べる。調査区全域で遺構を確認している。出土した遺物の量は、VI層上面（古墳時代前期）よりも少ない。

#### 【南区】

##### S D3128溝跡（第15図）

【位置】 南区東側北壁際A-54・57、B-54・57グリッドで検出している。

【重複】 S D3127溝跡、S K3129土坑と調査区北壁際で重複しており、それより古い。また、S D3130溝跡とも重複しており、それよりも古い。

【規模・埋土】 北西から南東へ延びる溝跡である。幅約0.9m、深さ約0.3mある。遺構北西側は、調査区外にあり、長さは不明である。溝跡東端はカクランにより壊されている。下層の埋土は、灰黄褐色の粘土であり、上層は黒～黒褐色の粘土である。

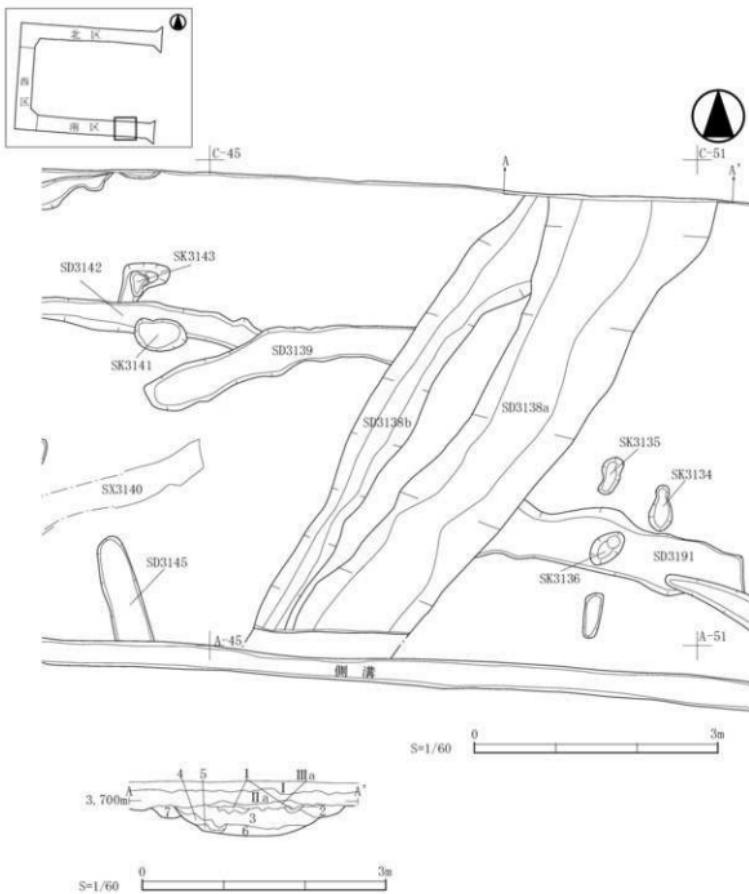
【遺物】 埋土中より8世紀後半の土師器片が出土している（第16図1）。

##### S D3127溝跡（第15図）

【位置】 南区東側北壁際A-51、B-51グリッドで検出している。

【重複】 S D3128溝跡、S K3129土坑と重複している。S D3128溝跡よりも新しく、S K3129より古い。またS D3133溝跡とも重複しており、それよりも新しい。

【規模・埋土】 北から南へ延びる溝跡で、幅約0.9m、深さ約0.3mある。溝跡北側が、調査区外にあるため、



第17図 IVa層平面図(2)・SD3138溝跡断面図

表14 SD3138溝跡層観察表

層位	造構	土色	土性	備考
1		灰黃褐色 (10YR4/2)	シルト	粘性ややあり。しまり強い。
2		黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	粘性ややあり。しまり強い。
3		黒褐色 (2, 5Y3/1)	シルト質粘土	粘性強い。しまり強い。
4	SD3138a	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	粘性ややあり。しまりややあり。
5		黒褐色 (5Y3/1)	砂質シルト	粘性強い。しまりややあり。
6		黒褐色 (10YR3/1)	粘土	粘性ややあり。しまりややあり。灰白色火山灰がクラックに入る。
7	SD3138b	黒褐色 (10YR3/2)	砂質シルト	粘性ややあり。しまりあり。

長さは不明である。埋土は、黒褐色のシルト層である。

【遺物】遺物は出土していない。

#### S K3129土坑（第15図）

【位置】南区東側北壁際B-51・54グリッドで検出している。

【重複】S D3127溝跡、S D3128溝跡と重複しており、いずれの遺構よりも新しい。

【規模・埋土】楕円形を呈しており、短軸は約0.7mあり、遺構北側が調査区外にあるため、長軸は不明である。埋土は、遺構の下層は黒色、上層は褐灰色で、いずれもシルト層である。

【遺物】遺物は出土していない。

#### S D3138溝跡（第17図）

【位置】南区東側B-45・48、C-45・48グリッドで検出している。

【重複】本溝跡は2期あり、a期よりもb期の方が新しい。また、a期はS D3191溝跡、b期はS D3139溝跡と重複しており、それよりも新しい。

【規模・埋土】a期は、幅約0.6m、深さ約0.2mで、埋土は黒褐色シルトである。b期は、幅約1.2～1.9m、深さ約0.3cmである。a・b期共に、両端が調査区外にあり、長さは不明である。埋土は、黒褐色シルトや粘土であり、a期よりも粘性が強い土であった。底面は皿状を呈している。a期の最下層（6層）は、ひび割れの中に灰白色火山灰が充填しており、10世紀前半には6層が堆積していたことがわかる。

【遺物】小片であるため図示していないが、b期の溝跡から土師器や回転ヘラ切りの須恵器壺の底部（I類）が出土している。

#### S K3147～3151土坑（第18図）

【位置】南区やや東よりA-36・39、B-36グリッドで検出している。

【重複】なし。

【規模・埋土】不整形の土坑群で、いずれの土坑も北東から南西に長軸が向いており、長軸で約0.5～0.6m、深さ0.2mである。5基の土坑は、北西から南東へ並んでいる。埋土は、黒褐色（10YR3/1）のシルトが主である。また、底面は不整形である。

【遺物】遺物は出土していない。

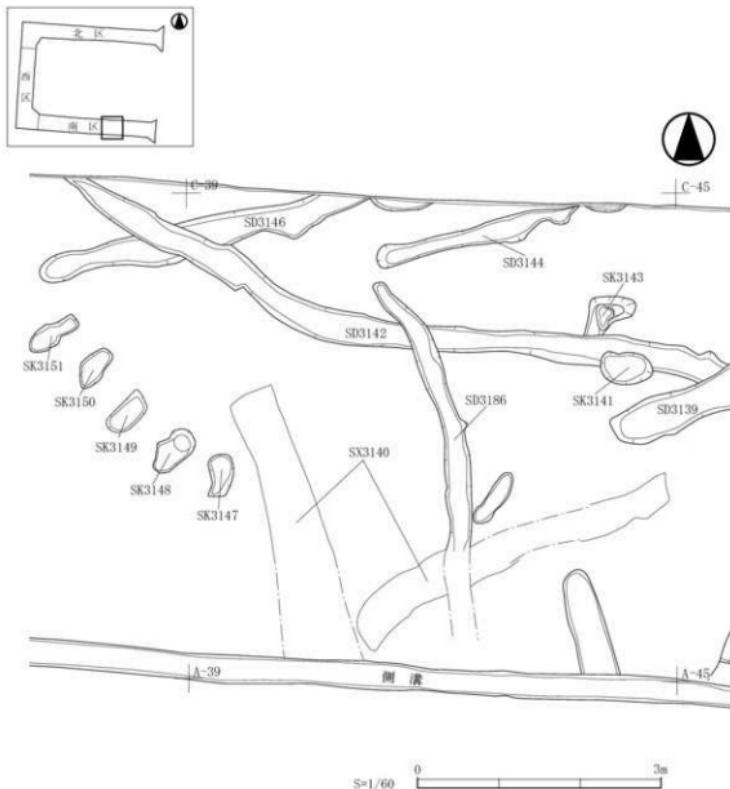
#### S D3152溝跡（第19図）

【位置】南区中央やや西寄りA-27・30、B-24・27、C-24グリッドで検出している。

【重複】S K3153土坑と重複しており、それより古い。

【規模・埋土】北西から南西方向への溝跡で、両端とも調査区外にあり、長さは不明である。幅約1m、深さ約0.3mあり、埋土は上層2層は、黄褐色系のシルトで、下層は黒色の粘土である。壁はやや急に立ち上がっている。また、この溝跡を北西側へ延長していくと、西区やや北よりで検出しているS D3183溝跡があり、同一の遺構の可能性がある。

【遺物】須恵器の蓋と底部が手持ちヘラケズリされている須恵器壺が出土している（第20図）。他に小片のため図示していないが、土師器壺や瓦が出土している。



第18図 IVa層平面図（3）

**S K3153土坑（第19図）**

【位置】南区中央やや西寄り A-27グリッドで検出している。

【重複】SD3152溝跡と重複しており、それよりも新しい。

【規模・埋土】楕円形の土坑で、長軸が北西方向に向いている。規模は長軸約1m、短軸約0.6m、深さ約0.25mである。埋土は灰黄褐色（10YR4/1）のシルトの単層であった。

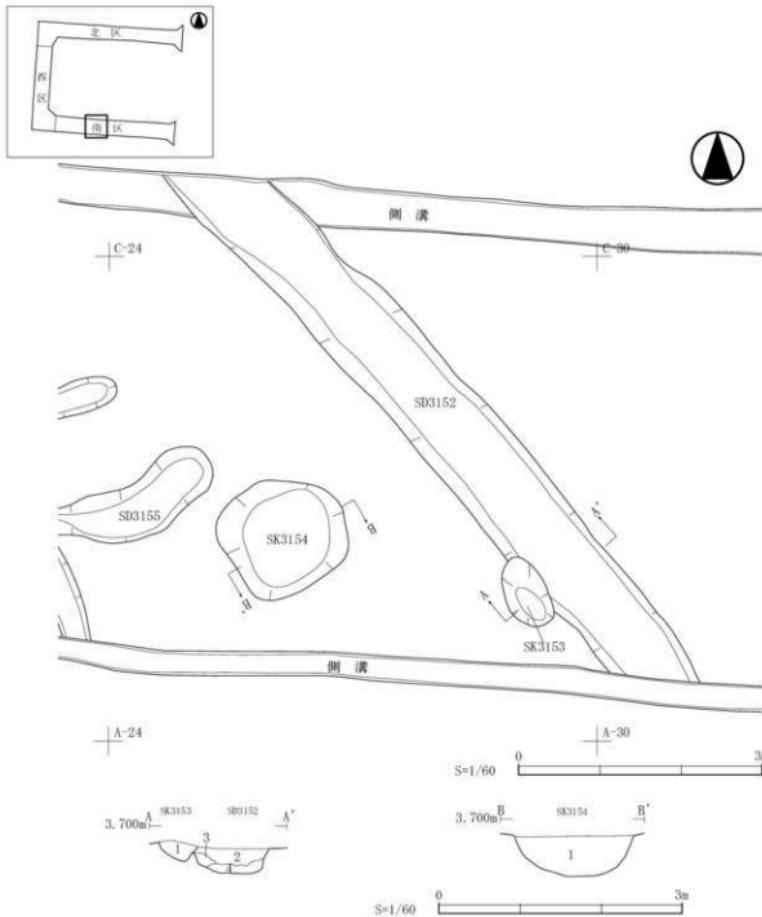
【遺物】遺物は出土していない。

**S K3154土坑（第19図）**

【位置】南区中央西寄り A-24、B-24グリッドで検出している。

【重複】なし。

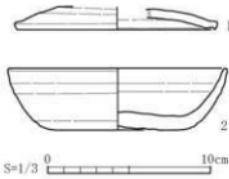
【規模・埋土】平面形は不整形である。長軸は約1.5m、短軸は約1.4m、深さは約0.5mである。埋土は、



第19図 IVa層平面図(4)・SK3153土坑等断面図

表15 SK3153土坑・SD3152溝跡・SK3154土坑土層観察表

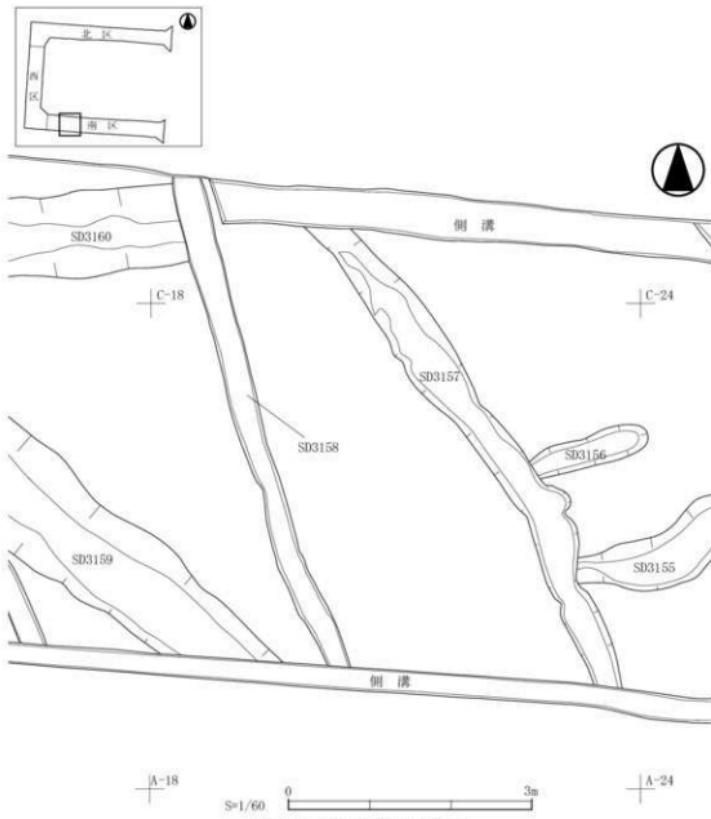
層位	道構	土色	土性	備考
1	SK3153	灰黃褐色(10YR4/1)	シルト	粘性あり。しまりやや強い。
2		灰黃褐色(10YR5/2)	シルト	粘性あり。しまりやや強い。
3	SD3152	にじみ、黃褐色(10YR5/2)	シルト	粘性あり。しまりあり。
4		黒色(10K2/1)	シルト質粘土	粘性強い。しまりあり。
1	SK3154	黒褐色(10YR3/2)	砂質シルト	粘性弱い。しまりあり。塊山プロック多く含む。人為的堆積。



第20図 S D3152溝跡出土遺物

表16 S D3152溝跡出土遺物観察表

番号	種類	出土遺跡	特徴		口径 横径率	底径 横径率	器高	厚糸回数	登録番号	備考	(単位: cm)
			外面	内面							
1	直底器 壺	SD3152	ロクロナデ	ロクロナデ	(12.2) 14/24	-	-	-	R26		
2	直底器 壺	SD3152	ヨクロナデ 直底: 手持ちへラケズリ	ロクロナデ	(13.4) 17/24	(9.0) 13/24	3.8	-	R58	II類	



第21図 IVa層平面図 (5)

黒褐色（10YR3/2）のシルトで、地山ブロックが多く混じっており、人為堆積である。

【遺物】遺物は出土していない。

#### S D3159溝跡（第21・22・24・26図）

【位置】南区A-15・18、B-12・15、C-12、西区C-9、D-6・9、E-0・3・6、F-0・3グリッドで検出している。

【重複】SD3160溝跡、SD3161溝跡、SD3171溝跡、SK3177土坑と重複しており、SD3171溝跡よりも新しく、SD3160溝跡、SD3161溝跡、SK3177土坑よりも古い。

【規模・埋土】北西から南東へ延びる溝跡であり、遺構の両端共に調査区外にあり、長さは不明である。幅約1.4m、深さ約0.3mある。埋土は、主に黒褐色土の粘性の強い土で、最下層（6層）には、灰白色火山灰のブロックが少量混じっている。

【遺物】B-9グリッドから須恵器壺が出土している（第23図1）。小片のため図示していないが、土師器、須恵器壺の底部（II類）、甕が出土している。

#### S D3160溝跡（第21・22図）

【位置】南区B-12、C-12～18、西区B-9、C-9グリッドで検出している。

【重複】SD3158溝跡に壊されており、SD3161溝跡、SD3159溝跡と重複している。SD3159溝跡よりも新しく、SD3161溝跡よりも古い。

【規模・埋土】東西に延びる溝跡で、東端は壊されているが、SD3158溝跡の東側に延びないので、長さ約8.0m、幅約1.0～1.2m、深さ約0.15mある。埋土は灰黄褐色のシルト系の土で、上層には灰白色火山灰のブロックが混入している。

【遺物】須恵系土器の壺が埋土中から出土している（第23図2）。他に小片のため図示していないが、古代の平瓦が出土している。

#### 【西区】

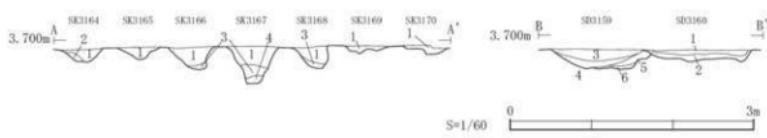
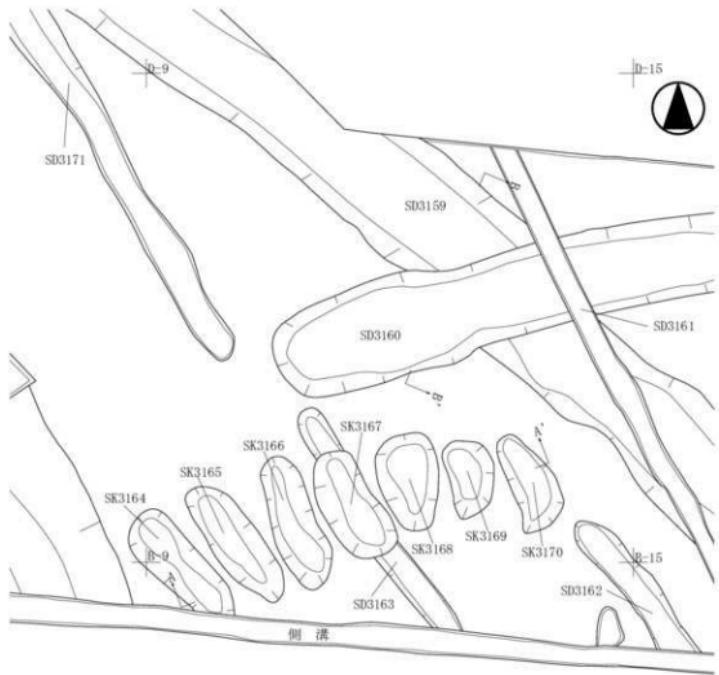
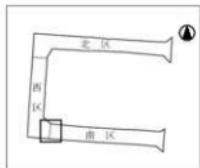
##### SK3164～SK3170土坑（第22図）

【位置】西区南東から南区西南A-9、B-6・9・12グリッドで検出している。

【重複】SK3167土坑がSD3163溝跡と重複しており、SK3167土坑の方が新しい。

【規模・埋土】東西方法に並んでいる、主軸をやや北西側に向けた土坑群である。SK3164土坑の遺構南側は調査区外にあるが、検出できたところで、長軸約1.6m、短軸約0.6m、深さ約0.15mのごく浅い、楕円形の土坑である。SK3165土坑とSK3166土坑はSK3164とほぼ同規模の土坑である。SK3167土坑の長軸は約1.4m、SK3168土坑の長軸は約1.2m、短軸は両者ともに約0.6mである。深さはSK3167土坑は約0.4m、SK3168土坑は約0.3mである。SK3169土坑は、長軸約1m、短軸約0.6m、深さ約0.1mである。SK3170土坑は、長軸約1.2m、短軸約0.6m、深さ約0.1mである。埋土は、いずれの土坑も灰黄褐色（10YR4/2）の砂質シルトが主である。SK3167土坑では、最下層に黒褐色（10YR3/1）粘土が堆積している。

【遺物】小片のため図示していないが、SK3167土坑からは土師器と須恵器、SK3170土坑からは土師器が出土している。



第22図 IVa層平面図(6)・SK3164土坑等断面図

表17 SK3164～3170土坑・SD3160溝跡・SD3159溝跡土質観察表

番号	遺構	土色	土性	備考
1	SK3164～3170	灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	粘性弱い。しまりやや強い。炭化物少量化。
2		にぶい黄褐色(10YR5/3)	砂質	粘性なし。しまりあり。
3		灰黄褐色(10YR4/2)	砂質シルト	粘性弱い。しまりあり。地山ブロック少量化。
4		黒褐色(10YR3/1)	粘土	粘性やや強い。しまりあり。
1	SD3160	灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	粘性あり。しまりやや強い。灰白色火山灰ブロック少量化。
2		灰黄褐色(10YR5/2)	砂質シルト	粘性弱い。しまりあり。地山粘土少量化。
3	SD3159	黒褐色(10YR3/2)	シルト	粘性やや強い。しまりやや強い。地山灰少量化。
4		黒褐色(10YR2/2)	砂質粘土	粘性やや強い。しまりあり。地山ブロック少量化。
5		黑色(10YR1.7/1)	シルト	粘性あり。しまりやや強い。
6		黒褐色(10YR3/1)	粘土	灰白色火山灰ブロック少量化。



第23図 SD3159溝跡・SD3160溝跡出土遺物

表18 SD3159溝跡・SD3160溝跡出土遺物観察表

番号	種類	出土遺構	特徴		口径 既存率	底径 既存率	高さ	写真回数	登録番号	備考
			外面	内面						
1	須恵器 环	SD3159 底面・ハーフ切り	ロクロナデ	ロクロナデ	(14.6) 5/24	(8.4) 12/24	4.3	4-6	K24	田畠
2	須恵器 环	SD3160 ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	(12.8) 3/24	(4.4) 1/24	5.5	-	K32	

## SD3171溝跡（第22・24・26図）

【位置】西区B-9、C-6・9、D-6、E-3・9、F-3、G-3グリッドで検出している。

【重複】SD3159溝跡、SD3178溝跡、SK3177土坑と重複しており、SD3178溝跡より新しく、SD3159溝跡、SK3177土坑よりも古い。

【規模・埋土】北西から南東へ延びる溝跡である。長さは、遺構北西部が調査区外にあるため不明である。幅約0.6m、深さ約0.3mである。埋土は、5層に分層が可能で、1、2層にはひび割れている箇所に灰白色火山灰が充填しており、火山灰が降ったころには、埋まっていたことがわかる。

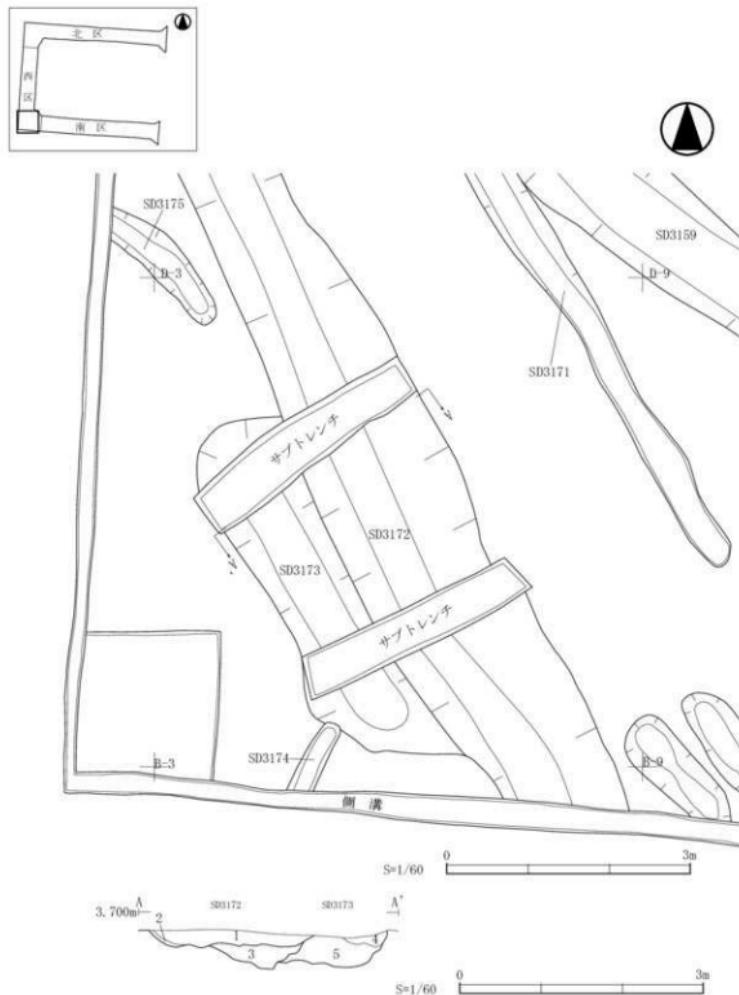
【遺物】小片のため図示していないが、土師器、須恵器片が出土している。

## SD3172溝跡（第24・26図）

【位置】西区南西A-6、B-3・6、C-3・6、D-0・3、E-0・3グリッドで検出している。

【重複】本遺構は、断面から2期あると考えられ、新しい方をa期、古い方をb期とする。また、a期はSD3173溝跡とSD3178溝跡と重複し、両遺構よりも新しい。

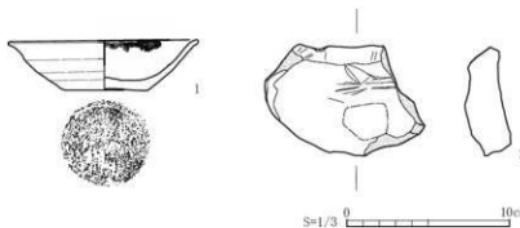
【規模・埋土】平面上でb期のプランを確認できることから、a期の遺構は、b期の遺構とほぼ同じ位置につくられたと考えられる。また、断面の観察により、a期は、b期よりも広く浅くつくり直されたといえる。a期は、遺構の両端は、調査区外にあり長さは不明である。幅約0.9～1.8m、深さ約0.15mある。b期は平面上でプランが確認できることから、長さは不明である。幅は断面から約1.1m以上あり、深さは、遺構確認面から約0.45mある。a期の埋土は、2層に分層が可能で、1層はにぶい黄褐色土



第24図 IVa層平面図(7)・SD3172溝跡等断面図

表19 SD3172溝跡・SD3173溝跡土質観察表

層位	透視	土色	土性	備考
1	SD3172a	にごい黄褐色 (10YR5/3)	砂質シルト	粘性あり。しまりやや強い。
2		黒褐色 (10Y3/1)	砂質シルト	粘性弱い。しまりやや強い。地山粒子少混合。
3	SD3172b	灰灰褐色 (10Y4/2)	砂質シルト	粘性あり。しまりあり。灰白色火山灰が充填しているラックがある。
4	SD3173	灰黄褐色 (10Y4/2)	砂質シルト	粘性あり。しまりやや強い。
5		黒褐色 (10Y2/3)	シルト	粘性やや強い。しまりやや強い。地山ブロックを含む。人為的堆積。



第25図 S D3172溝跡出土遺物

表20 S D3172溝跡出土遺物観察表

番号	種類	出土遺物	特徴		口径 現存率	底径 現存率	厚高	写真図版	登録番号	備考	(単位: cm)
			外側	内面							
1	須恵系土器 B期	SD3172a	ロクロナデ 底盤: 扇形底切り	ロクロナデ	(11.6) 14/24	5.3 24/24	3.1	+7	H31	内面に鉢縁あり。	
2	砥石	SD3172							H35		

(10YR5/3)、2層は黒褐色土 (10YR3/1) が薄く堆積しており、いずれも砂質シルトである。b期の埋土には、ひび割れた所 (クラック) に灰白色火山灰が充填しており、火山灰が降った時には埋まっていたものと考えられる。b期の溝跡は10世紀前葉には埋まっていたことがわかる。

【遺物】10世紀中頃から後半の須恵系土器の坏が、調査区南壁の近く、a期の埋土から出土している。a期は、10世紀中頃以降の時期を想定できる。他にどちらの時期のものかは不明であるが、D-3グリッドから砥石も出土している (第25図)。

#### S D3173溝跡 (第24図)

【位置】西区南西B-3・6、C-3グリッドで検出している。

【重複】S D3172溝跡とS D3174溝跡と重複しており、両遺構よりも古い。

【規模・埋土】長さは約4.5m、幅は遺構東側をS D3172溝跡が壊しており不明である。深さは、約0.45mある。埋土は、黒褐色土 (10YR2/2) に地山ブロックが多量に混入しており、人為堆積と考えられる。

【遺物】遺物は出土していない。

#### S E3176井戸跡 (第26図)

【位置】西区D-6、E-6グリッドで検出している。

【重複】なし。

【規模・埋土】遺構の東半分は、調査区外にある。確認した範囲では直径約2.2m、遺構確認面から深さ約0.9mある。埋土は、5層に分層可能で、3層以外は黒色～黒褐色の粘性の強い土である。3層は灰黄褐色 (10YR4/2) の粘土である。

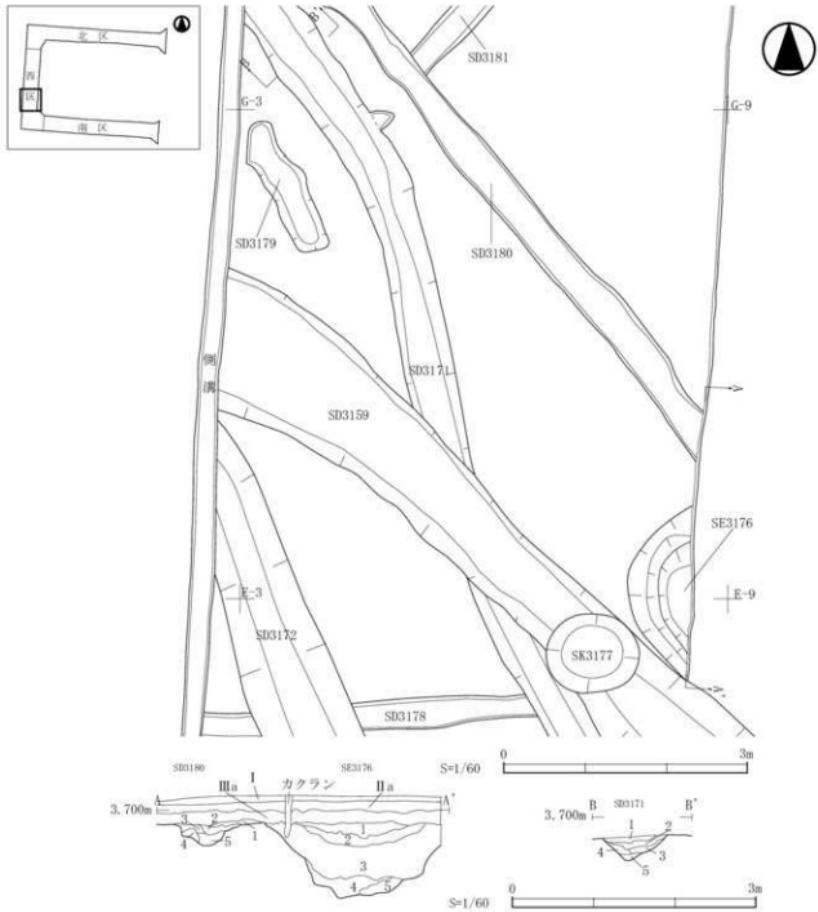
【遺物】平瓦が出土している (第27図)。

#### S D3180溝跡 (第26・28図)

【位置】西区E-6、F-3・6、G-3グリッドで検出している。

【重複】S D3181溝跡と重複しており、それよりも新しい。

【規模・埋土】長さについては、両端ともに調査区外にあるため不明である。幅約0.5m、深さ約0.25mある。



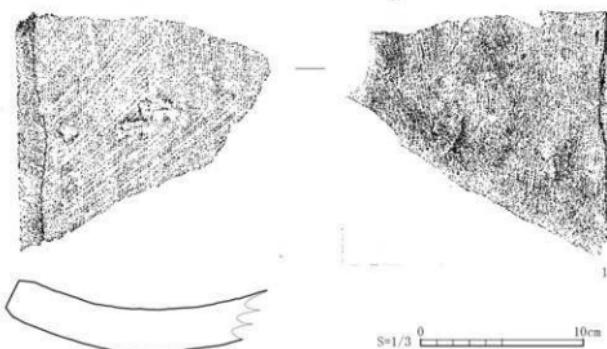
第26図 IVa層平面図(8)・SE3176井戸跡等断面図

表21 SE3176井戸跡・SD3180溝跡土質観察表

層位	地塊	土色	土性	備考
1		黒褐色(10R8Z/2)	粘質土	粘性やや強い。しまりやや強い。
2		黒色(10V8Z/1)	粘土	粘性強い。しまりあり。黒褐色粘土が層状に堆積する。
3	SE3176	灰白色(10V8A/2)	粘土	粘性強い。しまりにかく。灰白色火山灰がクラックに充填している。
4		黒褐色(10R8Z/1)	粘土	粘性強い。しまり弱い。
5		黒褐色(2, 5Y3/1)	粘土	粘性強い。しまり弱い。
1	SD3180	黒褐色(10R8Z/2)	シルト	粘性あり。しまりやや強い。
2		黒色(10V8Z/1)	シルト	粘性あり。しまりやや強い。灰白色火山灰がクラックに充填している。
3		黒褐色(10V8Z/2)	シルト	粘性あり。しまりにやや強い。
4		灰白・黄褐色(10V8S/2)	シルト質砂岩	粘性やや弱い。しまりあり。地山ブロック少巣含む。
5		灰黃褐色(10V8A/2)	シルト質砂岩	粘性やや弱い。しまりあり。地山ブロック少巣含む。

表22 S D3171溝跡土層観察表

層位	遺構	土色	土性	備考
1	S D3171	黒褐色(10YR3/2)	シルト	粘性あり。しまりあり。灰白色火山灰がクラックに充填している。
2		灰黄褐色(10YR4/2)	シルト	粘性やや強い。しまりあり。灰白色火山灰がクラックに充填している。
3		灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	粘性やや弱い。しまりあり。地山の砂を少量含む。
4		褐灰色(10YR7/1)	シルト	粘性あり。しまりあり。
5		灰黄褐色(10YR5/2)	シルト	粘性弱い。しまりやや弱い。



第27図 S E3176井戸跡出土遺物

表23 S E3176井戸跡出土遺物観察表

番号	種類	出土遺構	特徴		口径 現存	底径 現存	深さ 器高	写真回数	登録番号	備考	(単位: cm)
			外面	内面							
1	平瓦	S E3176	直目	調査項目	—	—	—	—	E03		

埋土は、上層が黒色から黒褐色のシルトで、下層がにぶい黄褐色から灰黄褐色のシルト質の砂層である。また、2層のひび割れたところに、灰白色火山灰が充填しており、10世紀前葉には埋まっていたものと考えられる。

【遺物】遺物は出土していない。

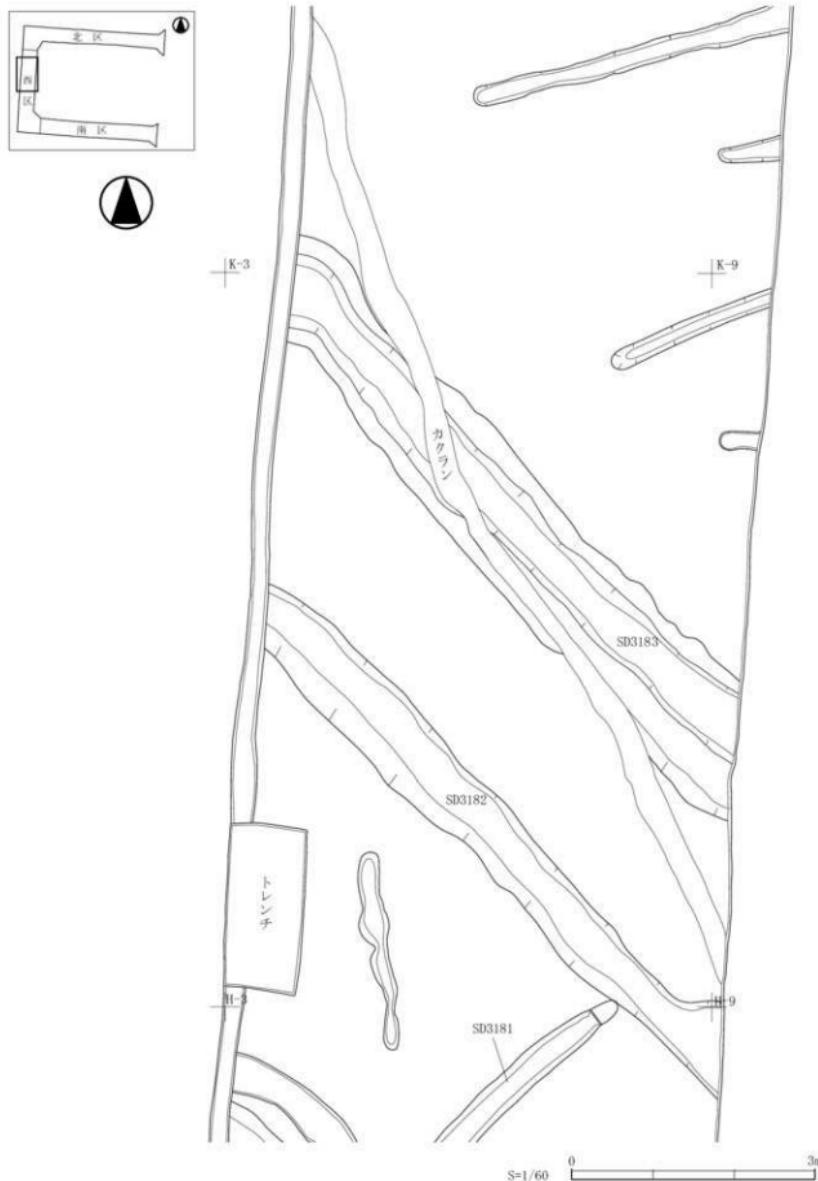
#### S D3183溝跡（第28図）

【位置】西区北側H-6・9、I-6・9、J-3・6、K-3グリッドで検出している。

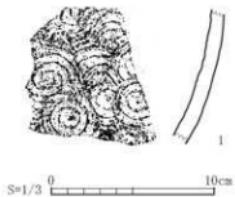
【重複】重複はないが、一部カクランにより壊されている。

【規模・埋土】北西から南東へ向かう溝跡で、長さは、両端共に調査区外にあるため不明である。ただし、この溝を南東方向へ延長すると、南区にS D3152溝跡があり、それと同一の遺構の可能性がある。幅は約1.2m、深さは約0.3mある。埋土は上層は黒褐色(10YR3/2)のシルトで、下層は灰黄褐色(10YR4/2)のシルトである。遺構の両側に段差が見られる。

【遺物】須恵器甕の破片が出土している（第29図）。



第28図 IVa層平面図(9)



第29図 S D3183溝跡出土遺物

表24 S D3183溝跡出土遺物観察表

番号	種類	出土遺物	特徴						(単位: cm)	
			外曲	内曲	口徑 横存率	底径 横存率	深高	等高 回数	鉢形 番号	備考
1	須恵器 裏	S D3183	平行叩き	同心円あて具	+	-	-	-	828	

#### 【北区】

##### S X3185小溝群（第30・31図）

【位置】北調査区のほぼ全面で、東西に延びる小溝跡を41条検出した。西側のS D3224溝跡・S D3225溝跡と東側のS D3226溝跡によって区画された内部に存在する。

【規模・埋土等】幅は最も広いもので0.5mほど、狭いもので0.2mほどで、0.3mほどのものが多い。また、深さは浅いもので0.1m、深いもので0.3mほどであるが、同じ小溝跡でも場所によって規模が異なるものもある。方向は概ね東西方向であるが、区画溝の近くでは区画溝に直交する方向となっており、東側では発掘基準線とほぼ同じであり、西側では、S D3224溝跡・S D3225溝跡が発掘基準線に対して北で西に約40°ほど振れていることから小溝群も同様に振れており、結果として区画の中央付近で屈曲している。埋土は地山の碎片（ブロック）を含む黒褐色シルトなどで、地山ブロックの含み方は様々であるがすべて人為的に埋め戻されたと思われる。なお、この黒褐色シルトは調査区内には現存しておらず、後世に削平されたものと思われる。この場合、小溝群の深さは現状よりさらに深かったことになる。底面には三日月形や半月形、長方形などの黒褐色シルトの落ち込みがみられ、掘削時の鋤の痕跡と思われる。これらは、規模や形状、方向や屈曲の状況など共通点が多いことから、何条かが同時に掘削されたものと考えられる。一方、小溝跡同士は近接しているものや重複しているものがあり、掘削は複数回行われたと思われる。ところで、本調査区周辺で人為的に埋め戻された小溝跡同士の間隔が推定できる例をみると内館館跡S X85小溝群で2m前後である（報告書作成中）。これを本調査区例に当てはめてみると2群に大別でき、それぞれが1回掘り直されていると推定できる（第30図）。

【遺物】小片ながら、S X3185-3の堆積土から須恵器、S X3185-32の堆積土から瓦が出土している。

##### S X3228小溝群（第30図）

【位置】S D3226溝跡の東側で検出した小溝跡2条から推定した。さらに東側に展開していると思われる。

【規模・埋土】幅は0.2mであり、深さは0.2mである。方向は西側の小溝群とは異なり南北方向で、北で東に約15°振れている。埋土は地山ブロックを含む灰黄褐色粘土などで埋め戻されている。

##### S D3224溝跡（第30図）

【位置】調査区西端で検出した南北溝で、さらに南へ延びている。

**【重複】**S D3225溝跡とS X3185小溝群と重複しており、これらより新しい。S X3185小溝群がこの溝付近で途切れていることから、小溝群を区画する溝と思われる。また、S X3229小溝群とも重複しており、それよりも古い。

**【規模・埋土】**幅は0.8mほどで、深さは最も深い部分で0.3mであり、南側が深くなっている。堆積土は黒褐色粘土などで自然堆積である。方向は北で西に約40° 振れている。

#### S D3225溝跡（第30図）

**【位置】**調査区西端で検出した南北溝で、南北両端はさらに調査区外に延びている。

**【重複】**S D3224溝跡とS X3185小溝群と重複し S D3224溝跡より古く、S X3185小溝群より新しい。S D3224溝跡と同様に小溝群を区画する溝と思われる。

**【規模・埋土】**幅は0.4mほどで、深さは最も深い部分で0.2mである。堆積土は黒褐色シルトなどで自然堆積である。方向は北で西に約40° 振れている。

#### S D3226溝跡（第30・31図）

**【位置】**調査区東側で検出した南北溝で、南北両端はさらに調査区外に延びている。

**【特徴】**S X3185小溝群がこの溝の付近で途切れることがあり、東西にある小溝群がこの溝を境にして方向が異なることから、S D3227溝跡はこれらの小溝群を区画する溝と思われる。また、平面的には確認できなかったが断面を検討したところ、2回掘り直されており、3時期の変遷があることが分かった。

**【規模・埋土】**最も新しいc期は、幅は1.2mほどで、深さは0.2mであり、堆積土は黒褐色粘土で自然堆積である。方向は北で東に約5° 振れている。b期はc期に壊されており規模は不明だがc期より西側にあり、堆積土は黒褐色粘土である。a期は同様にc期に壊されており詳細は不明だが、深さは0.3mほどで、堆積土は黒褐色粘土である。

#### S D3227溝跡（第30図）

**【位置】**調査区中央部で検出した南北溝で、南北両端はさらに調査区外に延びている。

**【重複】**S K3184土坑とS X3185小溝群と重複し両者より古い。

**【規模・埋土】**幅は1.0mほどで、深さは最も深い部分で0.2mである。堆積土は灰黄褐色粘土などで自然堆積である。方向は北で西に約25° 振れている。

**【遺物】**堆積土中から古墳時代前期の土師器甕の破片が出土した。

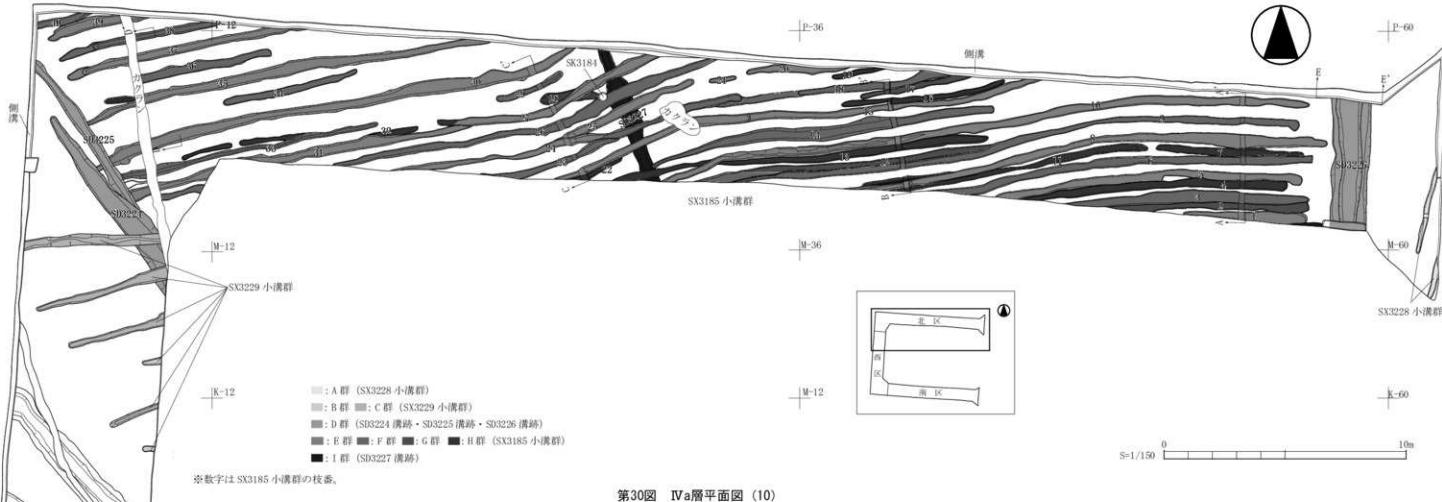
#### S K3184土坑（第30図）

**【位置】**調査区中央部で検出した土坑である。

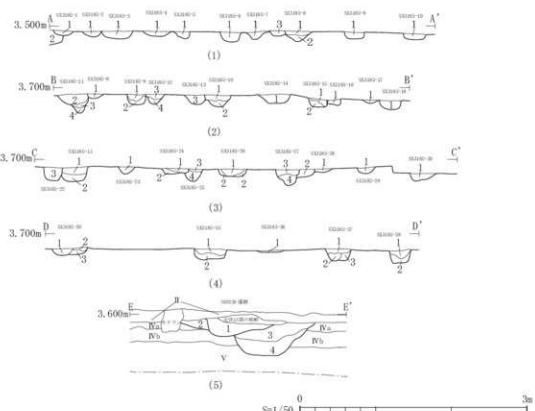
**【重複】**S D3227溝跡とS X3185小溝群と重複し、両者より新しい。

**【規模】**直径0.4mの円形で、深さは0.1mである。

**【遺物】**堆積土中から須恵器壺（第32図）と土師器甕の破片が出土した。



第30図 IVa層平面図 (10)



第31圖 S.Y.3185小溝群，S.D.3226溝跡斷面圖

表25 SX3185小群貫穿観察記(1)			
組番	組別	土色	土性
1	黒褐色(10YR1/1)	砂土	地山ブロッケ(底辺2cm附近) 多く含む。
2	黒褐色(10YR1/2)	砂土	地山ブロッケ(底辺2cm附近) 多く含む。
3	黒褐色(10YR1/2)	砂土	地山ブロッケ(底辺2cm附近) 多く含む。
4	黒褐色(10YR1/1)	粘土	地山ブロッケ(底辺2cm附近) 多く含む。
5	黒褐色(10YR1/1)	粘土	地山ブロッケ(底辺2cm附近) 多く含む。
6	黒褐色(10YR1/2)	粘土	地山ブロッケ(底辺2cm附近) 多く含む。
7	黒褐色(10YR1/2)	粘土	地山ブロッケ(底辺2cm附近) 多く含む。
8	黒褐色(10YR1/1)	粘土	地山ブロッケ(底辺2cm附近) 多く含む。
9	黒褐色(10YR1/1)	砂土	地山ブロッケ(底辺5-10cm附近) 多く含む。
10	暗褐色(10YR2/3)	砂土	地山ブロッケ(底辺5-10cm附近) 多く含む。
11	暗褐色(10YR2/3)	砂土	地山ブロッケ(底辺5-10cm附近) 多く含む。

表26 S X 3185小漢群土質観察表(2)			
記述	地質	土色	土性
1	SX3185-11 黑褐色。(0W92/2)	粘土 粘土	鹿山ブロッケ(直徑2~4cm前後) 少量含む。
2	黑褐色。(0W92/2)	粘土 粘土	鹿山ブロッケ(直徑2~4cm前後) 少量含む。
3	SX3185-12 灰褐色。(0W92/2)	粘土 粘土	鹿山ブロッケ(直徑5~6cm前後) 多く含む。
4	SX3185-13 黑褐色。(0W92/2)	粘土 粘土	鹿山ブロッケ(直徑5~6cm前後) 多量に含む。
5	SX3185-9 黑褐色。(0W92/2)	粘土 粘土	鹿山ブロッケ(直徑2~4cm前後) 少量含む。
6	黑褐色。(0W92/2)	粘土 粘土	鹿山ブロッケ(直徑5~6cm前後) 多量含む。
7	SX3185-12 灰褐色。(0W92/2)	粘土 粘土	鹿山ブロッケ(直徑2~4cm前後) 少量含む。
8	SX3185-10 黑褐色。(0W92/2)	粘土 粘土	鹿山ブロッケ(直徑2~4cm前後) 多量含む。
9	SX3185-11 黑褐色。(0W92/2)	粘土 粘土	鹿山ブロッケ(直徑2~4cm前後) 少量含む。
10	SX3185-10 黑褐色。(0W92/2)	粘土 粘土	鹿山ブロッケ(直徑2~4cm前後) 少量含む。
11	SX3185-14 黑褐色。(0W92/2)	粘土 粘土	鹿山ブロッケ(直徑2~4cm前後) 少量含む。
12	SX3185-17 灰褐色。(0W92/2)	粘土 粘土	鹿山ブロッケ(直徑2~4cm前後) 少量含む。
13	SX3185-16 黑褐色。(0W92/2)	粘土 粘土	鹿山ブロッケ(直徑2~4cm前後) 多量に含む。
14	SX3185-17 黑褐色。(0W92/2)	粘土 粘土	鹿山ブロッケ(直徑2~4cm前後) 少量含む。
15	SX3185-18 黑褐色。(0W92/2)	粘土 粘土	鹿山ブロッケ(直徑2~4cm前後) 少量含む。

表27 S X3185小溝群土層観察表(3)

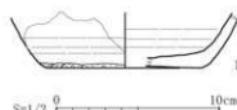
層位	遺構	土色	土性	備考
1	SX3185-15	黒褐色(10YR3/1)	粘土	地山ブロック(直径5cm以下)多く含む。
2		黒褐色(10YR3/1)	粘土	地山ブロック極めて多量に含む。
3	SX3185-23	黒褐色(10YR3/1)	粘土	地山ブロック(直径5cm程)多量に含む。
1	SX3185-24	黒褐色(10YR3/1)	粘土	地山ブロック極めて多量に含む。
2	SX3185-25	黒褐色(10YR3/1)	粘土	地山ブロック極めて多量に含む。
3	SX3185-26	黒褐色(10YR3/1)	粘土	地山小ブロックを少量含む。
4		黒褐色(10YR3/1)	粘土	地山ブロック(直径5cm程)多量に含む。
1	SX3185-27	黒褐色(10YR3/1)	粘土	地山小ブロックを少額含む。
2		黒褐色(10YR3/1)	粘土	地山ブロック(直径5cm程)多量に含む。
1	SX3185-29	黒褐色(10YR3/1)	粘土	地山ブロック(直径5cm以下)多く含む。
2		黒褐色(10YR3/1)	粘土	地山ブロック(直径5cm程)多量に含む。
3	SX3185-28	黒褐色(10YR3/1)	粘土	地山小ブロックを少量含む。
4		黒褐色(10YR3/1)	粘土	地山ブロック極めて多量に含む。
1	SX3185-30	黒褐色(10YR3/1)	粘土	地山ブロック(直径5cm以下)多く含む。
1	SX3185-31	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土	IV層の地山ブロックを多量に含む。

表28 S X3185小溝群土層観察表(4)

層位	遺構	土色	土性	備考
1		黒褐色(10YR3/2)	粘土	地山ブロック(直径5cm以下)多量に含む。
2	SX3185-31	黒褐色(10YR3/2)	粘土	地山小ブロック少額含む。
3		にこり 黄褐色(10YR5/3)	砂層	黒褐色粘土ブロックを少量含む。
1		黒褐色(10YR3/2)	粘土	地山小ブロック少額含む。
2	SX3185-36	黒褐色(10YR3/2)	粘土	地山ブロック(直径5cm以下)多量に含む。
1	SX3185-37	黒褐色(10YR3/2)	粘土	地山ブロック(直径5cm以下)多量に含む。
1		黒褐色(10YR3/2)	粘土	地山小ブロック少額含む。
2	SX3185-38	黒褐色(10YR3/2)	粘土	地山ブロック(直径5cm以下)多量に含む。
3		にこり 黄褐色(10YR5/3)	砂層	黒褐色粘土ブロックを少量含む。
1	SX3185-39	黒褐色(10YR3/1)	粘土	地山小ブロックを多く含む。
2		にこり 黄褐色(10YR5/3)	砂層	黒褐色粘土ブロックを少量含む。

表29 S D3226溝跡土層観察表

層位	遺構	土色	土性	備考
1	SD3226-c	黒褐色(10YR3/1)	シルト	地山小ブロック少額含む。
2	SD3226-b	黒褐色(2.5Y3/1)	粘土	地山小ブロック少額含む。
3	SD3226-a	黒褐色(10YR3/1)	シルト	地山小ブロック少額含む。
4		黄褐色(2.5Y5/2)	砂	IVa層・IVb層のブロックを多量に含む。



第32図 S K3184土坑出土遺物

表30 S K3184土坑出土遺物観察表

番号	種類	出土遺構	特徴		口径 保存率	直徑 保存率	器高	字典回数	登録番号	備考	(単位: cm)
			外曲	内曲							
1	瓦器部 灰	SK3184	クロロナダ 底部: 半持ヘラケツリ	ロクロナダ	-	(9.6) 6/24	-	-	R25	且類	



第33図 IVa層遺構外出土遺物

表31 IVa層遺構外出土遺物観察表

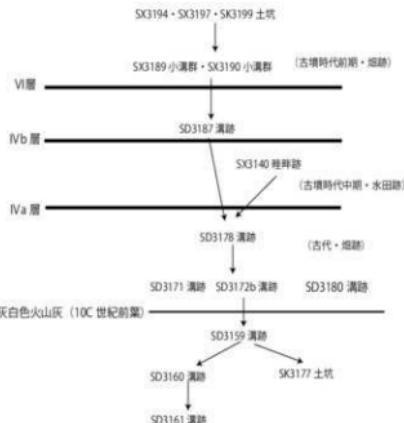
(単位:cm)

番号	種類	出土地点	特徴		口径 横存率	底径 横存率	器高	写真回数	登録番号	備考
			外面	内面						
1	土師器 甕	SB0172	埋藏より不明	ヘラナデ	-	(5.3) 14/24	-	-	R06	A類
2	土師器 甕	SB0172	ヨコナデ-ヘラナデ	ナデ	36.41 6.24	-	-	4-8	R12	
3	凹面鏡	C-33	透かし彫、縦縞		-	-	-	-	R30-1	
4	凹面鏡	C-33	縱縞		-	-	-	-	R30-2	
5	平瓦	E-18	布目	調印き目	-	-	-	-	R34	
6	砥石	1號	長さ:9.2	幅:3.7	厚さ:3.0					
7	砥石	1號	長さ:6.2	幅:3.9	厚さ:3.5				R07	

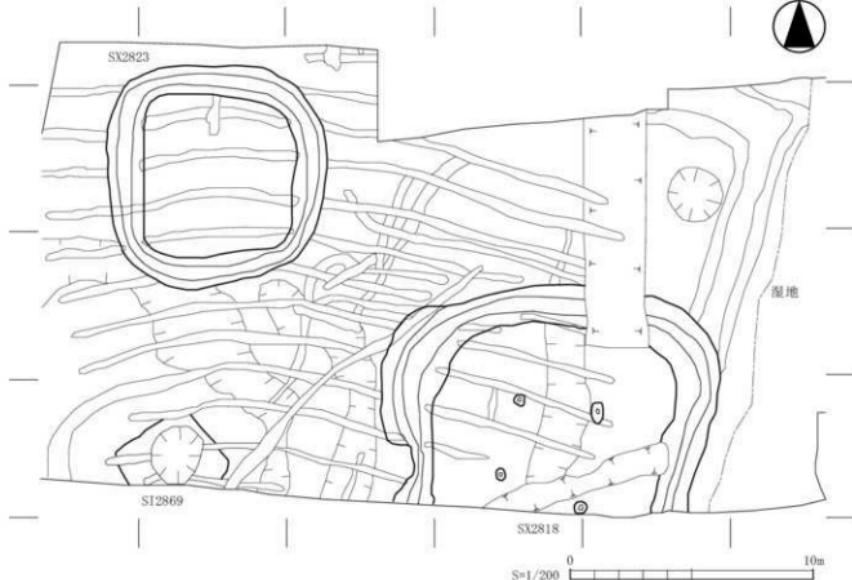
## 第4章まとめ

### 古墳時代前期（VI層上面検出遺構）について

VI層上面で検出した遺構は、遺物の出土状況からみて古墳時代前期の遺構と考えられる。SD3187溝跡以外の遺構や遺構外から、古墳時代前期の土器が出土している。VI層上面で出土した遺物の量は、上層のIVa層上面で出土した遺物の量にくらべ、多く出土している。北区、南区両調査区で検出した遺構は、小溝群が主なものであり、畑の耕作跡と思われる。建物跡などの遺構を検出していないにもかかわらず遺物の出土量が多かった。これには次のような理由が考えられる。本調査区の北側において、平成7・8年に宮城県教育委員会が県道泉・塩釜線の建設に先立って発掘調査を実施している（第35図、宮城県教育委員会、1998）。そこでは、古墳時代前期の周溝に囲われたSX2823・SX2818竪穴建物跡を発見している（飯島義雄、2008）。特にSX2823竪穴建物跡の周溝から多くの古墳時代前期の遺物が出土しているのである。本調査区は、県の調査区に隣接していることから、今回調査が及んでいない範囲に古墳時代前期の竪穴建物跡がある可能性が高い。そのため、古墳時代前期の遺物が多く出土したと考えられる。



第34図 遺構変遷図



第35図 宮城県調査地点X区中央平面図（宮城県教育委員会1998を再トレース）

### 古墳時代中期の遺構（IVb層上面検出遺構等）について

IVb層上面の遺構は、南区の南側のごく一部の範囲にあることを確認した。遺構としてはS X3140畦畔跡がある。この遺構の時代は、少量であるが古墳時代中期の遺物が遺構外から出土したこと、古墳時代前期検出面であるVI層より上層で、古代の検出面であるIVa層より下層で検出していることから、古墳時代中期のものと推定される。また、VI層上面で確認したSD3178溝跡からは、古墳時代中期の高坏が出土している。SD3178溝跡は、VI層上面で確認したが、上層から掘りこまれている可能性が高い。つまり、古墳時代中期の遺構は、IVb層の上面で確認できる水田跡とV層、IVb層のどちらからの層から掘りこまれてSD3178溝跡が存在することになる。

### 古代の遺構（IVa層上面検出遺構）について

古代の遺構は、IVa層上面で検出した。時期は、遺物からみると、8世紀後半の土師器坏（第16図）が出土していること、10世紀中頃以降の須恵系土器（第25図1）が出土していることから、8世紀後半から10世紀後半ぐらいを想定できる。しかし、どの遺構がいつの時期のものであるかを確定するには、遺物が遺構に伴うものか不明なため、決定できるものではない。

SD3171溝跡やSD3172溝跡b期の埋土には灰白色火山灰が筋状に入り込んでいるのが観察できた。原因としては、10世紀前葉頃に降灰した灰白色火山灰が、①地面のひび割れに沿って入り込んだ、②昆虫などが活動した穴に入り込んだ、③草木の根が腐ってできた空洞に入り込んだ、などが考えられる。いずれにしても、SD3171溝跡やSD3172溝跡b期などは、灰白色火山灰が降った時には、埋まっていたはずなので、10世紀前葉以前の遺構であると考えられる。

また、SD3159溝跡の6層やSD3160溝跡の上層には、ブロック状の灰白色火山灰が堆積している。このことから、10世紀前葉以降に埋没した遺構も存在することがわかる。よって、IVa層上面で検出した遺構は、少なくとも10世紀前葉以前から10世紀後半ごろに機能していたと思われる。

北区で検出した小溝群は、人為的に埋め戻されている点が特徴で、畑の畝間の溝跡とは考えられないが、畑作に関連する遺構と推定されている（佐藤甲二、2000）。

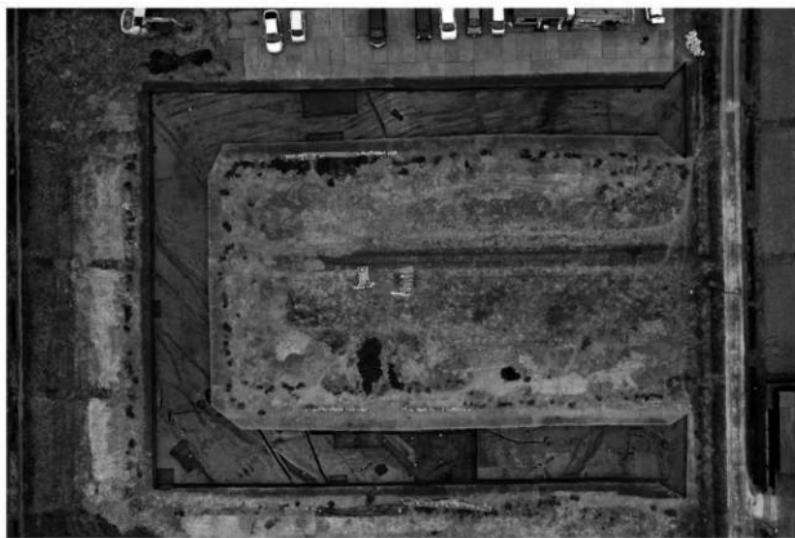
今回の調査では、古墳時代前期の畑跡、古墳時代中期の水田跡、古代の畑跡などを発見した。つまり、この地点は、古墳時代前期・中期・古代の生産域であったことがわかった。

### 参考文献

- 飯島義雄2008『宮城県仙台平野における古墳時代前期の「周溝をもつ建物」の認識とその意義』芹沢長介先生追悼論文集刊行会編『芹沢長介先生追悼 考古・民族・歴史学論叢』六一書房
- 佐藤甲二2000『細跡の耕作痕に関する問題点と今後の課題－仙台市域の調査事例をとおして－』日本考古学協会2000年度鹿児島大会実行委員会編『はたけの考古学』
- 多賀城市教育委員会2013『多賀城市内の遺跡2－平成24年度ほか発掘調査報告書－』多賀城市文化財調査報告書第111集
- 多賀城市教育委員会2018『新田・山王遺跡ほか一震災復興関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ－』多賀城市文化財調査報告書第137集
- 多賀城市教育委員会2021『新田・山王・高崎・西沢遺跡ほか一震災復興関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ－』多賀城市文化財報告書第146集
- 多賀城市教育委員会2021『多賀城市的遺跡2－令和2年度ほか発掘調査報告書－』多賀城市文化財調査報告書第148集
- 宮城県教育委員会1998『山王遺跡町地区の調査－県道泉塩釜線関連調査報告書Ⅱ－』宮城県文化財調査報告書第175集
- 宮城県教育委員会2018『山王遺跡Ⅷ－三陸沿岸道路建設に伴う八幡・伏石地区発掘調査報告書－』宮城県文化財報告書第246集



1 調査区遠景（北から）



2 調査区全景

写真図版 2



1 北区VI層上面遺構検出状況



2 南区VI層上面遺構検出状況



3 S X3190-12・16・19断面（東から）



4 S X3189-1遺物出土状況（南から）



5 SK3188遺物出土状況（北から）



6 古墳時代中期畦畔断面（東から）



1 S D3127溝跡等完掘状況（西から）



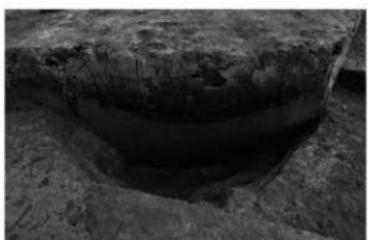
2 S K3154土坑完掘状況（北西から）



3 S D3152溝跡完掘状況（東から）



4 S D3171溝跡等完掘状況（西から）



5 S E3176井戸跡完掘状況（西から）



6 S X3185小溝群完掘状況（西から）



7 S X3185-6・7・8断面（東から）



8 作業風景（北西から）

写真図版 4



1 SD3187溝跡出土土師器高坏 (R 2)



2 VI層遺構外出土土師器高坏 (R 43)



3 SX3189小溝群出土土師器壺 (R 18)



4 VI層出土古墳時代土師器



5 SD3128溝跡出土土師器坏 (R 1)



6 SD3159溝跡出土須恵器坏 (R 24)



7 SD3172a溝跡出土須恵系土器小型坏 (R31)



8 IVa層遺構外出土土師器器台 (R 12)



## 報告書抄録

ふりがな	さんのういせき							
書名	山王遺跡							
副書名	第223次調査報告							
シリーズ名	多賀城市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第156集							
編著者名	大木丈夫 佐藤則之							
編集機関	多賀城市埋蔵文化財調査センター							
所在地	〒985-0873 宮城県多賀城市中央二丁目27-1 Tel: 022-368-0134							
発行年月日	西暦2022年3月29日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因
さんのういせき 山王遺跡 (第223次)	宮城県多賀城市南宮字伊勢225番外	042099	18013	38度 17分 58秒	140度 57分 44秒	2020年9月18 ~ 2020年12月8日	940m <sup>2</sup>	宅地造成
遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
さんのういせき 山王遺跡 (第223次)	集落・都市	古墳、古代、中世	溝跡・小溝群	土師器、須恵器				
要約	古墳時代の小溝群、古代の溝跡、小溝群等を発見した。							

## 多賀城市文化財調査報告書第156集

## 山王遺跡

- 第223次調査報告書 -

令和4年3月29日発行

編集 多賀城市埋蔵文化財調査センター

宮城県多賀城市中央二丁目27番1号

電話 (022) 368-0134

発行 多賀城市教育委員会

多賀城市中央二丁目1番1号

電話 (022) 368-1141

印刷 株式会社東誠社

仙台市宮城野区岡田西町1-55

電話 (022) 287-3351